履 修 要 項

２０２２年度

（看護学科１年生向け）

三育学院大学

2022 年 3 月 30 日

目　　次

１　看護学部のめざすもの …… 1

２　看護学部の３つのポリシー …… 2

３　カリキュラムの構成 …… 4

４　科目ナンバリング …… 7

2020 年度以降入学者　看護師課程カリキュラム …… 10

2020 年度以降入学者　保健師課程カリキュラム …… 12

看護師課程　授業科目概要…… 14

保健師課程　授業科目概要…… 27

５　卒業要件について…… 29

６　保健師課程を選択する場合 …… 33

７　単位の計算方法 …… 35

８　履修登録について …… 35

９　履修登録の手引き …… 36

１０　授業について …… 40

１１　試験・成績について …… 41

１２　1 年次開講科目 …… 43

１３　2 年次開講科目 …… 46

１４　3 年次開講科目 …… 49

～ 各科目のシラバスについて ～

本履修要項に記載されている各科目のシラバスは、今後の新型コロナウイルスの状況によっては予定が変わる可能性がございます。
あらかじめご了承いただけますよう、お願いいたします。

１　看護学部のめざすもの

看　護　学　部　長
村 上　　寛

三育学院大学看護学部は、１９２８年に日本におけるキリスト教の愛の宣教に使命を感じた米国人クリスチャンドクターとナースたちによって看護師養成所が開設されました。以来、90 余年間、聖書を土台とした看護教育を行っています。その間、看護教育は一貫して全人的回復を目指す看護〔ホリスティック・ナーシング(Wholistic Nursing)〕を理念として、神と人々に仕える看護職者を世に送り出してきました。

全人的看護（ホリスティック・ナーシング）とは、看護を行う者とその看護を受ける対象者が、共に人間の尊厳の回復と維持、心と身体と霊の調和のとれた健康を目指し、知性、身体、霊性の統合体としての人間の全体的な回復を支援する具体的な看護のことを意味しています。

看護学部では、全人的看護を実践できる看護職者を育てるために次の３つのことを大切にしています。

第 1 は、神の愛を学ぶことを通して、自己と他者の価値と尊厳を認めることのできる豊かな人間性を育成する。

第 2 は、物事を論理的に考える思考力をはぐくみ、問題を主体的に取り組むことのできる看護専門職者を育成する。

第 3 は、自ら健康的な生活を実践するとともに、他者もこのような実践ができるよう支援する看護職者を育成する。

これらの教育目標をもとに、看護学部は、学生が自ら考え、主体的に学習に取り組むことができるように、多様な学習内容や方法からなるカリキュラムを構築しています。

私達を取りまく社会は、少子高齢化がさらに進み、高度医療の進展、在宅医療へのシフトなどと激変しています。そのため医療だけでなく、介護・福祉分野とも密に協力連携し、これらの変化に対応できる高い専門性と豊かな人間性を兼ね備えた看護専門職者が希求されています。

卒業までにこのような社会の期待に応えるために必要な能力を身につけてください。そのために、履修要項をよく読み、予習復習を含め、学修計画をたてて、効果的

な学修を進めてください。教員はそれぞれオフィスアワーを設けていますので、積極的に助言を求め、実りある学びにつなげることを願っています。

2　看護学部の『３つのポリシー』

【ディプロマ・ポリシー】

三育学院大学における教育の理念は、設立母体であるセブンスデー・アドベンチスト教団のキリスト教の精神に基づき、聖書の示すところの人間の「全人的回復」にある。この理念のもと、神をすべての価値の源として真理を探求し、自己と他者の尊厳を重んじ、より良い社会の形成のために貢献できる看護専門職者を育成することを目的とする。

その目的の実現のために以下の能力・資質を備えている学生に学位を授与する。

１．人間の尊厳を尊重し擁護する能力

２．科学的根拠に基づいて、全人的看護（ホリスティック・ナーシング）を実践する能力

３．看護専門職者としての倫理的態度

４．看護の対象に関わる人々や保健・医療・福祉における多職種と連携協働できる能力

５．異文化を理解し国際看護に貢献できる能力

６．自己の健康を管理する能力

７．生涯を通して看護の現象について探求し自己研鑽する能力

【カリキュラム・ポリシー】

三育学院大学看護学部の教育理念、教育目標に基づき、ディプロマ・ポリシーの達成のために以下のようにカリキュラムを編成する。

１．「教養教育科目」「専門基礎科目」「専門教育科目」の３科目群からカリキュラムを構築する。

２．初年次は＜看護の基盤を築く＞、２年次は＜専門知識を身につける＞、3年次は＜知識と実践をつなげる＞、4年次は＜看護を深化させる＞ことを目標に段階的に科目を配置する。

３．人間の尊厳を尊重し、擁護する倫理観を育成するため、キリスト教科目を各学年に配置する。

４．本学の看護の中心的概念である「全人的看護」を理解し、実践する能力を育成するための講義・演習・実習科目を配置する。

５．対象のスピリチュアルな側面を理解し、寄り添う看護が実践できる科目を配置する。

６．地域で暮らす人々の文化・生活状況を理解し、支援する能力を育成する科目を初年次より配置する。

７．多様な文化・価値観を理解し、世界で健康支援ができる能力を育成する語学・国際看護科目を配置する。

（教育方法）

１．主体的に学ぶ力を身につけるために、アクティブラーニングの学修方法を取り入れる。

２．見識を広め、学びを深めるために、少人数を活かしたグループワーク、ディベートなどを取り入れる。

３．知識と実践をつなぐために、シミュレーション教育やロールプレイ、事例を使った演習などを取り入れる。

４．初年次教育では、大学生としての学修方法や学修習慣を身につけるために、学修センターの活用を推奨する。

５．全学年を通して、オフィスアワーを活用した学修の振り返りをする機会を提供する。

（学修成果の評価）

１．科目目的・目標に到達しているか、定期試験・レポート・実習評価等から学修成果を評価する。

２．科目ごとに授業評価アンケートを行い、授業改善、学修支援に役立てる。

【アドミッション・ポリシー】

本看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次の資質を備えている学生を求めます。

１．人と関わることに喜びを見出すことができる人

２．本学の目指す全人的看護※に関心があり学ぼうという意欲のある人

３．誠実で基本的な倫理観を備えている人

４．自己の健康と生活習慣を管理する意識がある人

５．探求心があり主体的に学習でき、入学前教育に積極的に取り組む意欲がある人

※全人的看護（ホリスティック・ナーシング Wholistic Nursing）とは：看護を行う者とその看護を受ける対象者が、ともに人間の尊厳を回復・維持し、心、身体、霊性（スピリチュアリティ）および社会性の調和のとれた健康を目指し、人間の全人的な回復を支援する具体的な看護のことです。

３　カリキュラムの構成

カリキュラムは、Ⅰ．教養教育科目、Ⅱ．専門基礎教育科目、Ⅲ．専門教育科目の３区分で構成され、３区分の下位に１６科目群１１８科目があります（保健師課程は１７科目群１２９科目）。図１にカリキュラムの概念モデル、表１(１)～表１(２)にカリキュラム表を掲載していますので参照してください。

Ⅰ．教養教育科目（６科目群３７科目で構成）

《アドベンチストの信仰と生活》

人生の身近な問題を考え、語り合い、キリスト教を土台とした幅広い人間観を学ぶ科目群（１１科目）です。

《人 間 の 理 解》

看護の対象となる人々をより広く理解するために、人間やその行動を科学的かつ全人的に捉える方法の基礎を学ぶ科目群（７科目）です。

《文化・社会の理解》

日本の歴史や文化・社会・経済を学ぶだけでなく、外国の歴史や文化・社会を学び、

異文化に身を置くことによりグローバルに物事を考える姿勢を学ぶ科目群（６科目）です。

《情　報　科　学》

受け取った情報をもとに物事を論理的に考え、分析し、相手に伝える技術を学ぶ科目群（４科目）です。

《基礎科学》

看護と関連がある自然界の諸現象を学問的に理解し、ならびに自然環境を大切にする姿勢を学ぶ科目群（４科目）です。

《語 学 の 修 得》

英語や韓国語の読む力・書く力・話す力を修得するための科目群（５科目）です。

Ⅱ．専門基礎教育科目（２科目群１７科目で構成）

《人 間 と 健 康》

人間の体と心の仕組みを理解するとともに、健康の維持増進、健康障害の原因や疾病の病態・治療について理解することを目的とする科目群（９科目）です。

《環境と健康》

保健行動は様々な要因に影響されることを理解するとともに、人々の健康生活を保障する保健医療福祉のありかたを考え、それに関連する法律や制度を理解し、生活者としての人間に対する支援のあり方を学ぶ科目群（８科目）です。

Ⅲ．専門教育科目（８科目群６４科目で構成）

７つの専門領域で構成されています。すべての看護領域に共通した基盤となるのは《基礎看護学》１１科目です。そして、看護の対象となる人間の成長発達段階や健康レベル、生活の場の特性に応じて、《地域看護学》９科目、《成人・老年看護学》１２科目、《小児看護学》４科目、《女性看護学》４科目、《精神看護学》４科目、《国際看護》４科目があります。さらに、専門領域での学びを深め、また、卒業後に看護を発展させていくことができるような科目群である《看護の発展科目》１６科目より構成されています。

これらの科目の中には多様な看護実践の場や基礎的な看護技術を体験する基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、地域実習から始まり、成長発達段階や健康レベルに応じた各領域別実習、さらに４年次前期には各領域での看護の学びを統合し、より高い看護実践能力を修得する総合看護実習が行われます。本学の特徴でもある異文化を理解し世界で健康支援を展開するための基礎を学ぶ国際看護実習Ⅰ・Ⅱ（選択科目）が 2 年次から開講されます。

【保健師課程】

３年次から保健師課程を選択した学生(定員１２名)は≪公衆衛生看護学≫１１科目が加わります。

4　科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、各科目に授業ナンバーを付すことです。授業ナンバーは「学問分類」・「学修進度」等で分類されています。学修の段階や順序等を表し、学生はどの科目から履修していけばよいのかわかるとともに、教育課程の体系がわかります。

ナンバリングの説明

科目ナンバリングコード

科目ナンバリングの構成は以下の通りです。

AB ＿（ｱﾝﾀﾞｰﾊﾞｰ）CD 100 E
①　　②　③　④

①学問分野の大分類

教養教育科目：Liberal Arts：**LA**
専門基礎科目：Basic Scientific Inquiry & Analysis：**BS**
専門教育科目：Nursing：**NR**

②学問分野の大分類を細分化した小分類

宗教科目：Religion：**RE**
人間の理解：Understanding Human：**HU**
文化社会の理解：Understanding Culture & Society：**CS**
情報科学：Information Science：**IS**
基礎科学：Basic Science：**BS**
語学の理解：Language：**LA**
人間と健康：Human & Health：**HH**
健康と環境：Health & Environment：**HE**
基礎看護学：Fundamental Nursing：**FU**
地域看護学：Community Nursing：**CO**
公衆衛生看護学：Public Health Nursing：**PH**
成人・老年看護学：Adult & Aging Nursing：**AA**
小児看護学：Pediatrics Nursing：**PE**
女性看護学：Woman Nursing：**WO**
精神看護学：Psychiatric & Mental Health Nursing：**PM**
国際看護：International Nursing：**IN**
看護の発展科目：Developmental Nursing：**DE**

③進度：履修する学年

100：1年次科目
200：2年次科目
300：3年次科目
400：4年次科目
※1の位は科目番号

④必修科目・選択科目

必修：Requirement：**R**
選択：Elective：**E**

図１　　カリキュラム概念モデル

3年次	4年次
東京校舎	大多喜キャンパス
知識と実践をつなげる	看護を深化させる

保健師課程
（選択制）

[公衆衛生看護学]
・公衆衛生看護学原論
・対象別支援技術論
・公衆衛生看護活動展開論Ⅰ

[公衆衛生看護学]
・公衆衛生看護活動展開論Ⅱ
・地域ケアシステム論
・組織協働活動論
・健康危機管理論
・公衆衛生看護管理論
・公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

・慢性期看護実習
・急性期看護実習
・回復期看護実習
・緩和ケア・終末期看護実習
・老人福祉施設実習
・母性看護学実習
・小児看護学実習
・精神看護学実習
・国際看護実習Ⅱ
・在宅看護論実習

[地域看護学]
・在宅看護論Ⅱ
・産業保健
・学校保健

[成人・老年看護学]
・緩和ケア・終末期看護論

[小児看護学]
・健康問題を持つ子どもと看護

[女性看護学]
・女性の健康問題と看護

[精神看護学]
・こころを病む人と看護

・総合看護実習
・スピリチュアルケア実習

[国際看護]
・国際保健医療問題

[看護の発展科目]
・看護展開演習Ⅱ
・スピリチュアルケア
・看護研究の基礎
・看護診断論

[発展科目]
・看護専門職論
・災害看護学
・卒業研究Ⅰ・Ⅱ
・看護管理学
・看護における補完療法
・論文講読

[環境と健康]
・疫学
・保健医療福祉論
・保健医療社会学

[アドベンチストの信仰と生活]
・聖書Ⅲ

[アドベンチストの信仰と生活]
・聖書Ⅳ
・クリスチャンの奉仕

4　表1－（1） 2020年度以降入学者 看護師課程カリキュラム

ナンバリング	区分		授業科目	授業の形態	単位数		1年				2年				3年				4年			
							前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
					必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
LA_RE100R	教養教育科目	アドベンチストの信仰と生活	キリスト教概論	講	2		◎															
LA_RE101R			聖書Ⅰ	講	1				◎													
LA_RE201R			聖書Ⅱ	講	1						◎											
LA_RE301R			聖書Ⅲ	講	1										◎							
LA_RE401R			聖書Ⅳ	講	1																◎	
LA_RE102E			キリストの生涯	講		2				○												
LA_RE103E			キリスト教音楽Ⅰ	演		1		○														
LA_RE104E			キリスト教音楽Ⅱ	演		1				○												
LA_RE202E			パーソナル ミニストリー	講		1								○								
LA_RE203E			ミニストリー オブ ヒーリング	講		2								○								
LA_RE402E			クリスチャンの奉仕	講		1														○		
LA_HU100R		人間の理解	発達心理学	講	1				◎													
LA_HU101R			人間関係論	講	1				◎													
LA_HU102E			哲学	講		2		○														
LA_HU103E			心理学	講		2		○														
LA_HU104E			スポーツ科学Ⅰ	演		1		○														
LA_HU105E			スポーツ科学Ⅱ	講		1				○												
LA_HU200E			教育学	講		2						○										
LA_CS100E		文化・社会の理解	社会学	講		2		○														
LA_CS101E			歴史	講		2				○												
LA_CS102E			美学	演		1				○												
LA_CS103E			ボランティア活動論	講		1		○														
LA_CS200E			日本国憲法	講		2								○								
LA_CS201E			日本文化演習(茶道)	演		1						○										
LA_IS100R		情報科学	基礎学習セミナー	演	1		◎															
LA_IS101R			論理的思考	演	1				◎													
LA_IS102R			情報科学	演	1		◎															
LA_IS103R			統計学	演	1				◎													
LA_BS100E		基礎科学	物理学	講		1		○														
LA_BS101E			生物学	講		1		○														
LA_BS102E			化学	講		1				○												
LA_BS200E			生活環境論	講		1						○										
LA_LA100R		語学の修得	英会話Ⅰ（日常英会話）	演	1		◎															
LA_LA101R			英会話Ⅱ（看護英会話）	演	1				◎													
LA_LA102R			英語Ⅰ（読む）	演	1				◎													
LA_LA200R			英語Ⅱ（書く）	演	1						◎											
LA_LA201E			韓国語	演		1								○								
BS_HH100R	専門基礎教育科目	人間と健康	人体の形態と機能Ⅰ	講	2		◎															
BS_HH101R			人体の形態と機能Ⅱ	講	2				◎													
BS_HH102R			生化学	講	1		◎															
BS_HH103R			微生物学	講	2				◎													
BS_HH104R			栄養学	講	1				◎													
BS_HH105R			疾病・治療学Ⅰ	講	1				◎													
BS_HH200R			疾病・治療学Ⅱ	講	2						◎											
BS_HH201R			疾病・治療学Ⅲ	講	2								◎									
BS_HH202R			薬理学	講	2						◎											
BS_HE100R		環境と健康	公衆衛生学	講	1				◎													
BS_HE101R			健康教育論Ⅰ（理論）	講	1				◎													
BS_HE200R			健康教育論Ⅱ（演習）	演	1						◎											
BS_HE201R			保健統計演習	演		1						○										
BS_HE300R			疫学	講	2										◎							
BS_HE301R			保健医療福祉行政論	講	2										◎							
BS_HE302R			保健医療社会学	講	1										◎							
BS_HE102E			ファシリテーション	講		1		○														
NR_FU100R	専門教育科目	基礎看護学	看護学概論	講	2		◎															
NR_FU101R			三育の全人的看護と伝統	講	1				◎													
NR_FU102R			看護技術の基礎	講	1		◎															
NR_FU103R			生活行動援助論Ⅰ	演	1		◎															
NR_FU104R			生活行動援助論Ⅱ	演	1				◎													
NR_FU105R			看護過程の基礎	演	1				◎													
NR_FU200R			ヘルスアセスメント	演	1						◎											
NR_FU201R			診療の援助技術論Ⅰ	演	1						◎											
NR_FU202R			診療の援助技術論Ⅱ	演	1								◎									
NR_FU106R			基礎看護学実習Ⅰ	実	1		◎															
NR_FU203R			基礎看護学実習Ⅱ	実	2								◎									

ナンバリング	区分		授業科目	授業の形態	単位数		1年				2年				3年				4年			
					必修	選択	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
							必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
NR_CO100R	専門教育科目	地域看護学	地域看護学概論	講	2		◎															
NR_CO200R			家族看護学	講	1								◎									
NR_CO201R			在宅看護論Ⅰ（在宅療養者の生活と支援）	講	2								◎									
NR_CO300R			在宅看護論Ⅱ（在宅療養者の支援の実際）	演	1										◎							
NR_CO301R			産業保健	講	1										◎							
NR_CO302E			学校保健	講		1										○						
NR_CO101R			地域看護学実習	実	1		◎															
NR_CO303R			在宅看護論実習	実	2												◎					
NR_CO102E			地域交流実習	実		1				○												
NR_AA100R		成人・老年看護学	成人の特徴と生活と健康	講	1				◎													
NR_AA101R			高齢者の特徴と生活と健康	講	1				◎													
NR_AA200R			慢性期看護論	演	2						◎											
NR_AA201R			急性期・周手術期看護論	講	2								◎									
NR_AA202R			回復期（リハビリテーション）看護論	講	1								◎									
NR_AA300R			緩和ケア・終末期看護論	講	1										◎							
NR_AA301R			慢性期看護実習	実	2												◎					
NR_AA302R			急性期看護実習	実	2												◎					
NR_AA303R			回復期看護実習	実	2												◎					
NR_AA304R			緩和ケア・終末期看護実習	実	2												◎					
NR_AA305R			老人福祉施設実習	実	1												◎					
NR_AA203E			看護理論	講		1								○								
NR_PE200R		小児看護学	子どもの特徴と生活と健康	講	1						◎											
NR_PE201R			子どもの健康と看護	演	1								◎									
NR_PE300R			健康問題をもつ子どもと看護	講	2										◎							
NR_PE301R			小児看護学実習	実	2												◎					
NR_WO200R		女性看護学	女性の特徴と生活と健康	講	1						◎											
NR_WO201R			リプロダクティブ・ヘルスと看護	講	2								◎									
NR_WO300R			女性の健康問題と看護	演	1										◎							
NR_WO301R			母性看護学実習	実	2												◎					
NR_PM200R		精神看護学	こころと健康	講	1						◎											
NR_PM201R			こころの健康増進と看護	講	1								◎									
NR_PM300R			こころを病む人と看護	講	2										◎							
NR_PM301R			精神看護学実習	実	2												◎					
NR_IN200R		国際看護	国際看護論	講	1						◎											
NR_IN300E			国際保健医療問題	講		1										○						
NR_IN201E			国際看護実習Ⅰ（欧米の看護体験）	実		2						○										
NR_IN301E			国際看護実習Ⅱ（アジアの看護体験）	実		2										○						
NR_DE200R		看護の発展科目	医療安全管理学	講	1								◎									
NR_DE201R			看護倫理	講	1								◎									
NR_DE202R			看護展開演習Ⅰ	演	1								◎									
NR_DE300R			看護展開演習Ⅱ	演	2										◎							
NR_DE301R			スピリチュアルケア	講	2										◎							
NR_DE302R			スピリチュアルケア実習	実	1												◎					
NR_DE303R			看護研究の基礎	講	2										◎							
NR_DE400R			看護専門職論	講	1																◎	
NR_DE401R			災害看護学	講	1														◎			
NR_DE402R			卒業研究Ⅰ（研究計画）	演	2														◎			
NR_DE403E			卒業研究Ⅱ（研究の実践）	演		2																○
NR_DE404R			総合看護実習	実	2														◎			
NR_DE304E			看護診断論	講		1										○						
NR_DE405E			看護管理学	講		1														○		
NR_DE406E			看護における補完療法	演		1																○
NR_DE407E			論文講読（看護）	講		1																○
			合計コマ数		**114**	**46**																

4　表1－(2) 2020年度以降入学者 保健師課程カリキュラム

ナンバリング	区分		授業科目	授業の形態	単位数		1年				2年				3年				4年			
					必修	選択	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
							必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
LA_RE100R	教養教育科目	アドベンチストの信仰と生活	キリスト教概論	講	2		◎															
LA_RE101R			聖書Ⅰ	講	1				◎													
LA_RE201R			聖書Ⅱ	講	1						◎											
LA_RE301R			聖書Ⅲ	講	1										◎							
LA_RE401R			聖書Ⅳ	講	1																◎	
LA_RE102E			キリストの生涯	講		2				○												
LA_RE103E			キリスト教音楽Ⅰ	演		1		○														
LA_RE104E			キリスト教音楽Ⅱ	演		1				○												
LA_RE202E			パーソナル ミニストリー	講		1								○								
LA_RE203E			ミニストリー オブ ヒーリング	講		2								○								
LA_RE402E			クリスチャンの奉仕	講		1														○		
LA_HU100R		人間の理解	発達心理学	講	1				◎													
LA_HU101R			人間関係論	講	1				◎													
LA_HU102E			哲学	講		2		○														
LA_HU103E			心理学	講		2		○														
LA_HU104E			スポーツ科学Ⅰ	演		1		○														
LA_HU105E			スポーツ科学Ⅱ	講		1				○												
LA_HU200E			教育学	講		2						○										
LA_CS100E		文化・社会の理解	社会学	講		2		○														
LA_CS101E			歴史	講		2				○												
LA_CS102E			美学	演		1				○												
LA_CS103E			ボランティア活動論	講		1		○														
LA_CS200E			日本国憲法	講		2								○								
LA_CS201E			日本文化演習(茶道)	演		1						○										
LA_IS100R		情報科学	基礎学習セミナー	演	1		◎															
LA_IS101R			論理的思考	演	1				◎													
LA_IS102R			情報科学	演	1		◎															
LA_IS103R			統計学	演	1				◎													
LA_BS100E		基礎科学	物理学	講		1		○														
LA_BS101E			生物学	講		1		○														
LA_BS102E			化学	講		1				○												
LA_BS200E			生活環境論	講		1						○										
LA_LA100R		語学の修得	英会話Ⅰ(日常英会話)	演	1		◎															
LA_LA101R			英会話Ⅱ(看護英会話)	演	1				◎													
LA_LA102R			英語Ⅰ(読む)	演	1				◎													
LA_LA200R			英語Ⅱ(書く)	演	1						◎											
LA_LA201E			韓国語	演		1								○								
BS_HH100R	専門基礎教育科目	人間と健康	人体の形態と機能Ⅰ	講	2		◎															
BS_HH101R			人体の形態と機能Ⅱ	講	2				◎													
BS_HH102R			生化学	講	1		◎															
BS_HH103R			微生物学	講	2				◎													
BS_HH104R			栄養学	講	1				◎													
BS_HH105R			疾病・治療学Ⅰ	講	1				◎													
BS_HH200R			疾病・治療学Ⅱ	講	2						◎											
BS_HH201R			疾病・治療学Ⅲ	講	2								◎									
BS_HH202R			薬理学	講	2						◎											
BS_HE100R		環境と健康	公衆衛生学	講	1				◎													
BS_HE101R			健康教育論Ⅰ(理論)	講	1				◎													
BS_HE200R			健康教育論Ⅱ(演習)	演	1						◎											
BS_HE201R			保健統計演習	演	1						◎											
BS_HE300R			疫学	講	2										◎							
BS_HE301R			保健医療福祉行政論	講	2										◎							
BS_HE302R			保健医療社会学	講	1										◎							
BS_HE102E			ファシリテーション	講		1		○														
NR_FU100R	専門教育科目	基礎看護学	看護学概論	講	2		◎															
NR_FU101R			三育の全人的看護と伝統	講	1				◎													
NR_FU102R			看護技術の基礎	講	1		◎															
NR_FU103R			生活行動援助論Ⅰ	演	1		◎															
NR_FU104R			生活行動援助論Ⅱ	演	1				◎													
NR_FU105R			看護過程の基礎	演	1				◎													
NR_FU200R			ヘルスアセスメント	演	1						◎											
NR_FU201R			診療の援助技術論Ⅰ	演	1						◎											
NR_FU202R			診療の援助技術論Ⅱ	演	1								◎									
NR_FU106R			基礎看護学実習Ⅰ	実	1		◎															
NR_FU203R			基礎看護学実習Ⅱ	実	2								◎									

ナンバリング	区分		授業科目	授業の形態	単位数		1年				2年				3年				4年			
					必修	選択	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
							必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
NR_CO100R	専門教育科目	地域看護学	地域看護学概論	講	2		◎															
NR_CO200R			家族看護学	講	1								◎									
NR_CO201R			在宅看護論Ⅰ(在宅療養者の生活と支援)	講	2								◎									
NR_CO300R			在宅看護論Ⅱ(在宅療養者の支援の実際)	演	1										◎							
NR_CO301R			産業保健	講	1										◎							
NR_CO302R			学校保健	講	1										◎							
NR_CO101R			地域看護学実習	実	1		◎															
NR_CO303R			在宅看護論実習	実	2												◎					
NR_CO102E			地域交流実習	実		1				○												
NR_PH300R		公衆衛生看護学	公衆衛生看護学原論	講	2										◎							
NR_PH301R			対象別支援技術論	演	2										◎							
NR_PH302R			公衆衛生看護活動展開論Ⅰ(理論)	講	1										◎							
NR_PH400R			公衆衛生看護活動展開論Ⅱ(演習)	演	1														◎			
NR_PH401R			地域ケアシステム論	講	1														◎			
NR_PH402R			組織協働活動論	講	1														◎			
NR_PH403R			健康危機管理論	講	1														◎			
NR_PH404R			公衆衛生看護管理論	講	1																◎	
NR_PH405R			公衆衛生看護学実習Ⅰ(市町村)	実	3														◎			
NR_PH406R			公衆衛生看護学実習Ⅱ(保健所)	実	1														◎			
NR_PH407R			公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)	実	1														◎			
NR_AA100R		成人・老年看護学	成人の特徴と生活と健康	講	1				◎													
NR_AA101R			高齢者の特徴と生活と健康	講	1				◎													
NR_AA200R			慢性期看護論	演	2						◎											
NR_AA201R			急性期・周手術期看護論	講	2								◎									
NR_AA202R			回復期(リハビリテーション)看護論	講	1								◎									
NR_AA300R			緩和ケア・終末期看護論	講	1										◎							
NR_AA301R			慢性期看護実習	実	2												◎					
NR_AA302R			急性期看護実習	実	2												◎					
NR_AA303R			回復期看護実習	実	2												◎					
NR_AA304R			緩和ケア・終末期看護実習	実	2												◎					
NR_AA305R			老人福祉施設実習	実	1												◎					
NR_AA203E			看護理論	講		1								○								
NR_PE200R		小児看護学	子どもの特徴と生活と健康	講	1						◎											
NR_PE201R			子どもの健康と看護	演	1								◎									
NR_PE300R			健康問題をもつ子どもと看護	講	2										◎							
NR_PE301R			小児看護学実習	実	2												◎					
NR_WO200R		女性看護学	女性の特徴と生活と健康	講	1						◎											
NR_WO201R			リプロダクティブ・ヘルスと看護	講	2								◎									
NR_WO300R			女性の健康問題と看護	演	1										◎							
NR_WO301R			母性看護学実習	実	2												◎					
NR_PM200R		精神看護学	こころと健康	講	1						◎											
NR_PM201R			こころの健康増進と看護	講	1								◎									
NR_PM300R			こころを病む人と看護	講	2										◎							
NR_PM301R			精神看護学実習	実	2												◎					
NR_PM200R		国際看護	国際看護論	講	1						◎											
NR_PM300E			国際保健医療問題	講		1										○						
NR_PM201E			国際看護実習Ⅰ(欧米の看護体験)	実		2						○										
NR_IN301E			国際看護実習Ⅱ(アジアの看護体験)	実		2										○						
NR_DE200R		看護の発展科目	医療安全管理学	講	1								◎									
NR_DE201R			看護倫理	講	1								◎									
NR_DE202R			看護展開演習Ⅰ	演	1								◎									
NR_DE300R			看護展開演習Ⅱ	演	2										◎							
NR_DE301R			スピリチュアルケア	講	2										◎							
NR_DE302R			スピリチュアルケア実習	実	1												◎					
NR_DE303R			看護研究の基礎	講	2										◎							
NR_DE400R			看護専門職論	講	1																◎	
NR_DE401R			災害看護学	講	1														◎			
NR_DE402R			卒業研究Ⅰ(研究計画)	演	2																◎	
NR_DE403E			卒業研究Ⅱ(研究の実践)	演		2																○
NR_DE404R			総合看護実習	実	2														◎			
NR_DE304E			看護診断論	講		1										○						
NR_DE405E			看護管理学	講		1														○		
NR_DE406E			看護における補完療法	演		1																○
NR_DE407E			論文講読(看護)	講		1																○
			合計コマ数		131	44																

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科　看護師課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	アドベンチストの信仰と生活	キリスト教概論	本学の建学の精神であるプロテスタント・キリスト教、とりわけその潮流のもとにあるセブンスデー・アドベンチストの信仰を学ぶことを通して、看護師として働く上で有益となる、より広い世界観を構築し、包括的な人間理解と命の尊厳を涵養する。また、聖書の学びを通して、スピリチュアルケアに必要な霊性についての理解を深め、学生自身の霊性を高める一助とする。	
		聖書Ⅰ （旧約聖書とわたしたち）	本学の建学の精神であるセブンスデー・アドベンチスト信仰の土台となっている聖書、ことに旧約聖書を概観し、聖書理解を深めるためにその歴史的、文化的背景について学ぶ。また、その中の幾つかの書と人物から教訓を学び、より広い視野をそなえた世界観とその世界観に基づく堅実な人生観を養う。	
		聖書Ⅱ （新約聖書とわたしたち）	イエス・キリストの生涯を概観し、キリストの教えと活動、ことに十字架と復活の意義について新約聖書全般から学び、そこから医療従事者としてのあり方について考える。また、イエス・キリスト以降、キリストの弟子たちが初代教会を造り上げていく過程を学ぶことを通して、キリスト教とその信仰についての理解を深める。	
		聖書Ⅲ （アドベンチスト教会の役割）	聖書の教えを土台としたセブンスデー・アドベンチストのライフスタイルを学び、看護師としてより健康的なライフスタイルを身につけるための一助とする。また、聖書に基づくセブンスデー・アドベンチスト信仰における終末論を学び、時代を見る視点とその中で生きる者としての使命を考える。また、終末論を学ぶことを通して、より豊かな死生観を養う。	
		聖書Ⅳ （現代の諸問題と聖書）	セブンスデー・アドベンチスト教会を含む、日本におけるキリスト教の伝播と歴史について学び、医療分野も含めてどのようにキリスト教が日本社会に影響を与えたかを学ぶ。また、聖書の道徳律である十戒とその意味について学び、十戒に基づいて性と結婚について考える。そして聖書から戦争と平和について学び、社会を構成する一員としてどのように社会の平和に寄与することができるかを考える。	
		キリストの生涯	イエス・キリストの教えとその生涯は、キリスト教信仰の土台であり、またキリスト者の模範である。この授業では、旧約聖書における救い主の預言をまず学び、旧約聖書で預言された救い主としてイエスを理解し、その教えとその働きから教訓を学ぶ。さらにキリスト教信仰の土台となっているイエスの十字架と復活の物語を通して聖書が語る愛と義と希望について学ぶ。そして、これらの学びを通して、キリストを模範とする看護師とはどのようなことなのかを考える機会とする。	
		キリスト教音楽Ⅰ	このクラスでは、キリスト教の礼拝の意義と目的を理解し、礼拝で奉仕する聖歌隊の働きと讃美歌について学び、実際に聖歌隊の奉仕を礼拝において体験する。このために、発声法、和声、また用いられる讃美歌の歌詞の意味等も学び、実際に聖歌隊の奉仕を礼拝やその他の状況において経験することを通して、讃美による奉仕の素晴らしさ、喜びを体験する。また曲を仕上げる過程において、各パートが協力してハーモニーを造り上げる経験を通して協調性を修得できる機会とする。	
		キリスト教音楽Ⅱ	このクラスでは、キリスト教の様々な儀式や行事の意味とそれにまつわる讃美歌を学ぶと共に、キリスト教音楽の歴史を学び、その音楽の多様性とともに、その背景にある信仰や文化についても触れる。また、特にクリスマスにちなんだ曲を取り上げ、教会のみならず様々な施設において音楽による奉仕を体験することで、奉仕の喜びを経験し音楽の可能性について体験を通して学ぶ。	
		パーソナル ミニストリー	ホリスティックナーシングの目指すところは、人間の全的回復であり、それは神の介在なしでは成し得ない。ゆえに個々人を神へ導く伝道の働きは、真の意味で全的回復につながる業である。以上のことふまえ、このクラスでは、まず聖書が描く神の愛について学び、ケアを提供する者として、神との交わりを通して個人の霊性を深めることを学ぶ。さらに、その関係に支えられて言葉のみならず、種々の関わりを通して、神の愛を伝えるための実践的知識を学ぶ。	
		ミニストリー オブ ヒーリング	聖書には世界最古の衛生法が書かれており、古代イスラエルの人々は多くの災害や病気から守られてきた。新約時代にはキリストや弟子による癒しの業が記録され、身体の癒しのみではなく心の癒しとの関連が強調されている。 今日の病気は外敵による被害よりも、内部からくる不安、焦燥感などによるものも多い。食生活の問題、環境汚染などの社会的変化により免疫力の低下もみられる。聖書時代の生活習慣と今日のそれと比較しながら、看護のありかた、病人へのアプローチなど学ぶ。	

授業科目の概要 （看護学部看護学科　看護師課程）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	アドベンチストの信仰と生活	クリスチャンの奉仕	キリスト教教育の目標の一つは、神と人に仕える人物の育成である。このためクリスチャンサービスでは、聖書における社会と個人に対する関わりをまず学ぶ。さらに、神と人に仕えるために組織された教会の種々の働きについて学び、個々人に与えられる奉仕のための神からの賜物を理解し、個々人に与えられている賜物の活用について考える。また、キリスト者の社会奉仕の事例を幾つか取り上げ、キリスト教信仰に基づく社会奉仕について学ぶ。	
	人間の理解	発達心理学	人間の生涯を、ライフサイクルという視点から連続的にとらえるとともに、人間が一生発達し続ける存在として、胎児期から老年期までの心身の発達を概観する。特に、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、老年期の各発達段階に見られる特徴や発達課題について、発達に関する理論や研究をもとに、身体的・心理的・社会的な側面から学ぶ。さらに、運動、知覚、認知、気質、感情、自己意識、対人関係の発達への理解を深める。加えて、発達に影響を及ぼす諸要因、発達障害及び発達臨床の在り方について学ぶ。	
		人間関係論	人間関係は、人が社会で生きていく限り取り組んでいく重要なテーマである。本科目では、人間関係についての基礎的な理論や研究成果に学びつつ、自己理解を深める。また、ワークを通して、よりよい人間関係・コミュニケーションについて考え、それを、日常生活・学校生活・将来の働きに活かしていくことを目的とする。この科目を通して、看護の現場における人間関係について概観し、よりよい関係の構築について考察していくことを目標とする。	
		哲学	哲学の学問領域を、「認識」と「存在」と「価値」をめぐる課題として確認した後「人間とは何か」という観点から哲学思想史を概観する。この問いには、「自己とは何か」、「世界とは何か」が含まれる。こうした課題が、古典古代（ソクラテス、プラトン等）、中世（アウグスティヌス、スコラ哲学）、近代以降（ドイツ観念論、功利主義、実存主義等）の西洋哲学思想においてどのように考えられてきたかを検討する。それに照らして、現代における我々自身の「生」と「存在」の本質を考える。また、その過程で、看護の哲学についても一部概括的考察を試みる。	
		心理学	人間の心の理解の歴史を概観することにより、人間および人間の心がどのように理解され、やがて心理学という学問に至ったかを概括的に学ぶ。また、近年目覚ましく進んだ心理学の研究を踏まえ、人間の心や行動を科学的かつホリスティックに捉える方法を学ぶ。更に、心理学という学問が、どのように日常生活に影響を与え応用されているかを知ることにより、人間の心と行動のダイナミックな関係についての理解を深め、人間を理解する豊かな感性、思考力、判断力を養うことを目標とする。	
		スポーツ科学Ⅰ	本科目では、神経系の機能が人間の働きにおよぼす影響について考察し、「運動」をキーワードにした神経系の機能維持・改善のための知識を習得することを目的としている。なお、習得した知識を実践的に用いる方法を学ぶために演習を行う。	
		スポーツ科学Ⅱ	本科目では、スポーツ科学Ⅰで学んだ「運動」をキーワードにした神経系の機能維持・改善のための知識を基に、より実践的な学習を行う。具体的には2つの条件を提示し、それぞれの条件を踏まえた運動プログラムづくりとそのプログラムの指導（グループ指導）ができるようになることを目的としている。	
		教育学	教育とは、人間の成長と発達ばかりでなく社会の形成と発展にも大きな影響を与える目的意識的な営みである。従って、授業では、教育の本質、目的、方法、制度などを総括的に学ぶことを通して学生が教育の重要性と必要性を認識することを目指す。さらに教育が人間的、社会的な要素から刺激を受け、絶えず変化し解決すべき課題を内包する生きた学問であることに気づき、課題解決を共に考えることで、学生自身の自己教育力を高めていく。同時に、他者や社会との関わり方を教育的な視点で捉えることができる、基礎的能力を養っていく。	
	文化・社会の理解	社会学	社会学の基本的な研究課題の一つに、社会と人間とのかかわりを明らかにすることがある。本講義では、まず社会学という学問の特徴を理解することから始まり、社会的存在としての人間や集団の特質についてとらえる。また、我々の身近にある存在・現象である家族・ジェンダー・地域社会・労働という側面から社会と人間との関わりについて理解を深め、格差・エスニシティ問題等を考察することにより、看護職を目指す者として社会現象に対する視点の広がりを持つようにすることが目的である。	

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科　看護師課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	文化・社会の理解	歴史	世界の近代化に多大な影響を与えた西洋の歴史を、１６世紀以後より現代に至る時期に限定して概観する。より具体的には、近世西洋がギリシア、ローマ文化、キリスト教、ゲルマン文化の遺産を受けつつ、ルネサンス、宗教改革、近代科学の発展などにより、世界史における先駆的な役割を演じたことを学ぶ。また、西洋の植民地政策の功罪、フランス革命などを媒体として発展した民主主義の意義、超大国アメリカの役割や問題点などを学ぶ。	
		美学	美学を通して、様々な現象のとらえかた、価値観、多様性に気づくことをねらいとする。建築、彫刻、絵画、写真、デザイン、および音楽の相互関係の様々な時期の西洋、東洋の文化の基本となる哲学的なアイディアを知る。さまざまな芸術形式の基本となる技術的な知識と、美的な洞察を獲得する。さらに、実際の美術館見学又は庭園見学、そして、キリスト教と芸術との関係、現代人の心理的・精神的問題との関係、自己表現することの意味、教育との関係などを学ぶ。	
		ボランティア活動論	ボランティア活動の本質に迫って、何をもってボランティア活動というかを考える。授業は講義と実践で構成される。講義ではボランティアの思想（捉え方）、歴史、国内や国外におけるボランティア活動の現状、動向、課題等について考える。ボランティアを学ぶことは、学ぶことだけに終わるのではなく、何らかの形での実践へと導くものであるといわれるように、実践から学ぶことを大切にする。	
		日本国憲法	立憲主義とは何か、現行憲法はどのような経緯で成立したのか、日本国憲法の基本原理は何か、日本国憲法にはどのような人権が保障されているか、また、その人権保障を実効あらしめるために、どのような制度や統治の仕組みが規定されているかなどについて理解することを目標とする。また、現在のわが国がどのような価値基準によって基礎づけられているのかを学び、それによって受講者各自が日本国において、いかなる存在意義を有しているのかを、主体的に考察することを目的とした授業を行う。	
		日本文化演習（茶道）	茶の湯を通して、人を大切にする心使いとその作法の訓練をし、日本人の心と日本の美について学ぶ。薄茶点前・風炉薄茶点前・炉薄茶点前の実践をとおし、人を大切にする心遣いとその作法を修得する。	
	情報科学	基礎学習セミナー	新入生が入学後、できるだけ早い時期に、大学での学習に円滑に取り組むことができるように、以下の基礎的な能力を養う。基礎的な能力として、１）文章の読解力、２）自己の思考を言葉や文章にして表現する（カンファレンスの持ち方の基本を含む）、３）自己の意見を適切な言葉で表現し、他者に伝える、４）関心のあるテーマについて主体的に情報を収集し学習する、５）集団の中でリーダーシップやメンバーシップを取り、役割を果たすといったことを特に本授業で取り上げる。小グループによるセミナー形式により行う。	
		論理的思考	大学生に求められる［自分で考える力］［学ぶ技術］を育てていくために、次のような能力を獲得することをめざす。情報を正確に読み取る力（読む力・聴く力・現象を捉える力）、物事の筋道を追う力、抽象化する力（概念化する力）、受けとった情報をもとに、自分の論理を組み立てる力、組み立てた論理を、相手に伝える力（書く力・話す力）を修得する。看護分野で広く読まれている〔科学的看護論〕〔科学的思考とは何か〕といった文献からも、必要とされる考える力を育てる内容を組み入れる。	
		情報科学	医療分野において次々にICTが導入され、その情報化に対応することは医療従事者として不可欠な資質になっている。本科目の目的は、情報科学に関する基本的知識をふまえた上で、看護と情報の関連性、看護情報の収集、基本的な情報処理機器の用法・技術を習得することである。それを通して情報についての知識、コンピュータを用いた情報の収集・整理・分析、プレゼンテーションに至るテクニックを学びとり、将来の看護職者としての活動に役立てることが目的となる。	
		統計学	本演習の目的は、今後看護を学習するにあたって必要な統計学の基礎を理解することである。まずは記述統計学の基礎を学び、それを踏まえ推測統計学の扱い方を知ることで、統計学的分析の理論についての知識を深める。なお本講義は2年次選択科目「保健統計演習」（保健師課程必修・看護師課程選択）を学ぶための基礎となる。	

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科　看護師課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	基礎科学	物理学	物理学は、自然界の諸現象からその根本法則を探求する学問であり、その応用として、医療現場でも人体ボディメカニックスや、体内の諸器官の状態を調べるための、心電図、脳波、超短波、Ｘ線などに物理学が用いられている。今後ますますハイテク医療用機器の改良、開発に物理学の原理・法則が応用されるであろう。看護の分野でも、人体ボディメカニックスや、ハイテク医療用機器の代表的なものの、動作原理を理解することが必要であり、そのためこのコースでは、力、圧力、温度などの例を通し物理学を学ぶ。	
		生物学	多様な生物が持つ共通の構造や機能、そして生物の多様性をもたらした仕組みを体系的に学ぶことにより、生命現象の理解を深める。	
		化学	化学の基礎的分野（基礎化学）を理解する。化学における物質観、元素の起源と分布、原子構造と周期律、物質の構造と化学結合、基本的な無機・有機物質の構造、物性、化学反応などについて、主として原子論的立場から考察する。 有機合成・分析、無機分析、物理化学の分野から選んだテーマの実験を通して、基礎的な化学の概念、実験技術を紹介し、化学実験を行う際の基本的な習慣を身に付けることを目的とする。	
		生活環境論	環境は人間に影響を及ぼし、人間は環境に影響を与えること、神は自然環境を完全な状態で創造されたことを踏まえ、私たちの生活が環境に与えてきた影響を考え、環境と調和した生活の向上のためには、今何が必要で、何ができるかということについて考える。それを通して、人間・環境・健康という３つの概念についての理解を深める。具体的には、現在の生活・地球環境を鑑みて自分に何が出来るかということ、また何をしていくべきかということを真剣に考え、それに対する答えを自分で見つけ出せるような授業を展開する。	
	語学の修得	英会話Ⅰ（日常英会話）	The course objective is to learn essential Nursing English vocabulary and phrases in order to relieve the anxiety of foreign patients in Japan seeking medical aid. Also, the goal of this course is to provide patient/nurse oriented scenarios, through which students will learn to fulfill the needs of foreign patients.	
		英会話Ⅱ（看護英会話）	The course objective is to review and further expand Nursing English learned in Nursing English Conversation Ⅰ. Also, the goal of this course is to provide patient/nurse oriented scenarios, through which students will learn to interact with foreign patients concerning treatment and disease.	
		英語Ⅰ（読む）	The primary aim of this course is to develop reading skills and vocabulary through the examination and discussion of newspaper articles. Students are encouraged to express their opinions. The format of lecture, question and answer, group discussion allows for a lively exchange of ideas. Students choose books, which they read at their own pace. Each class will begin with an activity designed to familiarize students with the books available. Students will then have some time to read or work on reports. 本科目は読解力と語彙力を養うことを目的としている。そのために学生は新聞記事を読み、それらを基に質疑応答や、グループ・ディスカッションを準備し、活発な意見交換を行う。授業では学生は、英語で意見が自由に述べられるよう支援を受ける。 また学生は能力に応じて本を選択し、読んだ内容を報告する時間を持つ。	
		英語Ⅱ（書く）	This course is designed to help students with English writing skills. Students are required to write 4-5 papers based on model readings and are given individual instruction. Vocabulary acquisition and correct grammar usage are emphasized. この科目は、学生の英作文の能力を向上させることが目的である。学生は、教科書を基に４～５の課題が提示され、課題にそって個別指導を受ける。個別指導の中で語彙の修得と正確な文法・語法の学修が可能になる。	
		韓国語	日本と一番近い国大韓民国。しかし、日本の言葉、文化とは違う独特の言葉と文化を持った国。その大韓民国という国名の意味、また、独特な文字ハングルの発祥を学ぶと共に、その機能、発音の方法を基礎から分かりやすく学び、ハングル文字が読め、書けるようにする。さらに、基礎会話の反復練習をすることにより、簡単な会話を学習者ができるようになることを目標とする。また、日本語と違う文字の仕組み、発音の方法、会話を学ぶことによって、異文化に接し、異文化に目を向けることを目的とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科　看護師課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎教育科目	人間と健康	人体の形態と機能Ⅰ	人体の正常な構造は正常な各器官の生理機能と連動している。複雑な生命活動の基礎であり、その理解は看護師としての基礎知識となる。本講義では生体を構成する器官、組織の形態・構造の特徴、局所的・機能的関連性を発生学的観点を踏まえて、概説し、生体全体の構造と機能を連動した知識を習得することを目的とする。	
専門基礎教育科目	人間と健康	人体の形態と機能Ⅱ	生体の生理機能は特有な機能を持つ器官・組織が協調・連携しあいながら、体の内外から加えられる種々な刺激に適時反応し、生体全体の内部環境を恒常に保つ機構が働いている。この恒常性維持機構は生体を構成する自律神経系による神経性協関（調節）系とホルモンや血液による液性協関（調節）系の動的平衡によって維持されている。本講義は生体の恒常性を維持するための生理的調節機構の概要を理解することを目的とする。	
専門基礎教育科目	人間と健康	生化学	生命活動を支える化学反応、人体を構成する物質がどのようにつくられ、こわされているのかを学ぶ。人体の恒常性がどのように保たれているのかについて学ぶ。	
専門基礎教育科目	人間と健康	微生物学	近年、感染症は大きな変貌をみせ、医療におけるその重要性が一層高まってきた感がある。ＭＲＳＡを中心とした院内感染、エイズ、種々の日和見感染等々の問題が、社会的にも大きく取り上げられるようになってきた。したがって、微生物学では、初めに細菌、ウイルス、真菌、原虫といった人に病気を起こす微生物（病原微生物：病原体）のアウトラインを学び、病原体全体の概念をつかんだ後で、それぞれの病原体ごとに、感染の特徴的な様式や病原性などを学ぶ。	
専門基礎教育科目	人間と健康	栄養学	栄養と疾病の関係について学ぶ。患者個々に適切な栄養を提供することが求められているなか、治療食の意義と特徴を理解することは、疾病の早期回復、予防につながることは言うまでもない。 食環境の改善を図り、実践するためには、生涯にわたり自己管理していく必要があるためその方法を学ぶ。	
専門基礎教育科目	人間と健康	疾病・治療学Ⅰ	疾病の成り立ちとそれに対する生体の反応を学び、対象理解を深めることにつなげる。また、回復を促す看護につなげるための根拠となる知識を学ぶ。細胞障害・変性と細胞死、修復と再生、創傷治癒の過程、．主な代謝障害とそのしくみ、循環障害によって起こる疾病とその病態、免疫系のしくみと役割、アレルギーの機転、代表的な免疫系の疾病、主な遺伝子疾患、腫瘍の病因と分類、浸潤・転移、老化と死、緩和医療について学ぶ。	
専門基礎教育科目	人間と健康	疾病・治療学Ⅱ	主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解し、看護につなげる。循環器系、呼吸器系、内分泌系、腎・非尿器系、脳神経系、皮膚、精神に関わる健康障害と、その原因、病態、治療の概要、それに対する人間の反応を理解し、観察、診療の補助、生活援助、患者・家族教育等、看護の重要な機能に結びつけられるよう学ぶ。	
専門基礎教育科目	人間と健康	疾病・治療学Ⅲ	主要な健康障害とその診断、治療に関する知識を学び、健康障害や検査、治療に伴う人間の身体的・精神的反応を理解し、看護につなげる。消化器系、血液・造血系、体液調節、産婦人科系、アレルギー、自己免疫疾患、感染症、骨格系に関わる健康障害と、その原因、病態、治療の概要、それに対する人間の反応を理解し、観察、診療の補助、生活援助、患者・家族教育等、看護の重要な機能に結びつけられるよう学ぶ。	
専門基礎教育科目	人間と健康	薬理学	看護師として必要な薬物の知識を学ぶ。薬物については、その分類から名称、作用機序、そして主に臨床薬理の中心となる主作用と副作用を勉強して、日常変化する患者の状態が、薬物によるものか、それとも基礎疾患によるものかをアセスメントできるような基本を身につける。総論では薬物の飲み方、各製剤の特徴、保存方法など、そして各論では各薬剤の特徴と主な副作用などを学ぶ。特に社会的問題の大きい抗癌剤、向精神薬、ステロイドには注意を払う。	
専門基礎教育科目	環境と健康	公衆衛生学	看護専門職に求められる衛生学・公衆衛生学、保健医療福祉行政に関連した基礎的事項を系統的に学修する。 ① 健康指標、人口統計、健康問題の変遷、② 疾病予防の段階、健康管理に係る技術理論と行政制度、③ 環境の把握とその評価、ヒトの健康に影響を及ぼす環境、④ 母子保健の水準、母子保健・福祉の活動、⑤ 子供の健康状況、学校保健活動、⑥ 労働者の健康問題、職場における健康管理、⑦ 老人の健康状態、老人保健対策、老人福祉対策、介護保険、⑧ 精神障害の現状と動向、精神保健福祉の活動について説明できることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科　看護師課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
	環境と健康	健康教育論Ⅰ（理論）	生活の場にいる人々を対象に患者や地域住民が主体的に生活行動の変容に取り組むための健康教育や保健指導を実施する時の看護職者の態度について学ぶ。そこで活用される理論を学習し、効果的な健康教育や保健指導技術を理解する。	
		健康教育論Ⅱ（演習）	健康教育の一連のプロセスを理解し、その中で対象に適した教育方法や教材の工夫について理解し実践できる能力を修得する。演習では、患者を対象にした健康教育を取り上げ、企画書・指導案の作成をし、それに基づいたロールプレイを実施する。ロールプレイでは、患者の生活に則した健康教育の提供とともに、患者の価値観や主体性を尊重した健康教育技術を修得する。	
専門基礎教育科目	環境と健康	保健統計演習	本演習は1年次の「統計学」で学んだ理論を踏まえ、保健師として必要な統計学的知識と技能を身につけることを目的とする。コンピュータを使用して実際にデータ処理を行うことで記述統計学についての理解を深め、さらに保健医療情報を扱う際に必要な推測統計学を用いて質的・量的変数の統計的分析方法の基礎を習得する。	
		疫学	人間集団における健康状態と、それに関連する要因の頻度と分布を明らかにする疫学の基礎的知識を学ぶ。データの収集のため調査方法を理解すると共に、疫学の定義、指標、曝露と曝露効果、疫学研究の分類、偶然とバイアスによる誤差、交絡の制御、因果関係等について講義を中心に学修する。また、Evidence-based Nursing（ＥＢＮ）という言葉が広く用いられているが、これは入手可能な範囲で最も信頼できる根拠、すなわち、質の高いエビデンスを把握した上で理にかなった看護を行うための一連の行動指針である。ＥＢＮ実践のために疫学知識の活用可能な方法についても学ぶ。	
		保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政に関わる基本的知識を学び、保健・福祉行政の理念や仕組みを理解する。そして、社会保障制度など保健医療福祉システムの概要や社会資源とその活用方法について理解する。各種の保健計画の策定過程やその評価および住民参画の意義を学習する。そして、保健医療福祉との連携、多職種や関連機関との連携。ネットワークの必要性を理解し、保健医療福祉行政における看護職の役割を理解する。	
		保健医療社会学	保健医療社会学とは現実の保健医療にかかわる事象を対象とし、これを社会学概念や理論・方法で解明する学問である。本講義ではまず社会学の学問的特徴をとらえ、保健医療社会学の特質と歴史的な流れをみていく。次に病気と社会との関連、健康概念の歴史的変遷、ソーシャル・キャピタルが健康に影響する意味、ジェンダーと病気、生命と社会、看護職の特質など、現代の保健医療をめぐる様々な事象を社会学的視点から見つめ直し理解することが目的となる。	
		ファシリテーション	本科目では、組織や職場のチームにおいてミーティング（話合い等）を効率的、効果的に実施し合意形成に向けて働きかけていくスキル（ファシリテーション・スキル）について理解を深めるとともに、そのスキルを用いることができるようになることを目的としている。	
専門教育科目	基礎看護学	看護学概論	本科目は、看護学の基本的概念、看護の位置づけと役割を学ぶ中で、看護は生命に直結する業務であり、看護者の倫理観や知識、技術が重要であることを学ぶ。具体的には①看護の主要概念を学ぶ、②看護の歴史を概観する、③医療安全や看護管理について学ぶ、④患者や家族との信頼関係を築くためのコミュニケーションについて学ぶ、⑤看護における国際化を学ぶ。これらを通し、看護とは何か、看護学とは何かについての理解を深める。 また、主たる看護理論を概観するとともに、ロイ適応看護モデルを学修する。この学修内容は概念を理解するなど、抽象的な理解が重要となるため、講義以外にも自ら調べ、カンファレンスを用い、思考を深めるような方略を用いる。	
		三育の全人的看護と伝統	本科目は、アドベンチスト医療・看護の歴史や、聖書の示す人間観・健康観を学ぶことを通して、人間を全人的に理解し、ホリスティックナーシングの実践者となる基礎的な能力を身につける。	
		看護技術の基礎	看護技術とは何か、人間の尊厳を尊重する看護技術とは何かを学ぶ。また、根拠に基づいて看護技術を実践する必要性について学ぶ。それらの看護技術の基本となる考え方を学んだ上で、観察の技術、コミュニケーション技術、環境調整の技術といった看護技術の基本となる共通の技術について学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科　看護師課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		生活行動援助論Ⅰ	看護技術の基礎に積み上げて学修する科目とする。生活者である対象者の生活行動を理解し、それを支える基礎的な看護援助技術を学ぶ。また、日常生活に影響を及ぼす健康上の問題や障害を知り、それを支える看護技術の知識と技術、態度を修得することを目標とする。具体的には、環境を整える技術、活動と休息に関する基礎的技術と安楽性を関連付けて学ぶ。技術演習は、2人もしくは3人一組となり、ケアの実施者としてだけでなく、ケアを受ける対象者の体験を行う。このことを通して、対象者の必要を理解し満たすことのできる基礎的な技術を身につける。	
専門教育科目	基礎看護学	生活行動援助論Ⅱ	生活行動援助論Ⅰに引き続き、生活者である対象者の生活行動を理解し、健康上の問題や障害を持つ人々の日常生活行動を支える看護技術を学ぶ。また、看護技術の基本的な知識と技術、態度を修得することを目標とする。特に生活行動援助論Ⅱでは、プライバシーへの配慮を必要とする清潔の援助技術、食事・栄養の援助技術、排泄の援助技術などの基礎的な技術を学ぶ。技術演習は、2人もしくは3人一組となり、ケアの実施者としてだけでなく、ケアを受ける対象者の体験を行う。このことを通して、対象者の必要を理解し満たすことのできる基礎的な技術を身につける。	
		看護過程の基礎	看護を科学的に実践するための問題解決過程である看護過程を理解する。ロイ適応看護モデルを概念枠組みとした看護過程の各段階のプロセスを学ぶ。授業は、講義と事例展開をグループワークで実施し、生活者としての人間をとらえられるよう生活援助論や解剖生理、病態生理と関連しやすい事例を通して学修する。看護職者にとって必要となる基本的な看護の思考過程の基礎を修得する。	
		ヘルスアセスメント	健康状態を把握するための看護専門職によるヘルスアセスメント技術の基本を修得し、正確なアセスメント（正常・異常の判別）ができるようになることを目標とする。看護師が行うフィジカルアセスメントの意義・目的と基本的なヘルスアセスメント（健康歴の聴取とフィジカルアセスメントを行うための基本的知識）について学修、バイタルサインについての知識・技術、そして系統的なフィジカルアセスメントの技術を演習を通して基本的なヘルスアセスメントの技術を身につける。	
		診療の援助技術論Ⅰ	看護技術概論および生活行動援助論Ⅰ、Ⅱを学修した上に積み上げて学習する科目であり、看護専門職者として診療の補助を行う際に必要となる知識・技術・態度について、理論や概念をとらえた上で、酸素吸入やネブライザー、吸引などの呼吸援助技術、経鼻経管栄養法や検査について基礎的な看護技術の目的や根拠を学ぶ。これらの技術は小グループに分かれ、演習用のモデルを利用し、繰り返し練習を積み重ね技術の向上を図る。また事例学修などを通して、診療・治療を受ける対象者を理解し、看護者としての役割を認識し、技術を修得できることをねらいとしている。	
		診療の援助技術論Ⅱ	診療の援助技術論Ⅰで学修した、診療の補助を行う際に必要となる基礎的な学修に基づき、内服や注射などの与薬技術や輸血、および穿刺や洗浄などの侵襲的処置、皮膚・創傷の管理、危篤・終末時などの看護技術を学修する。また技術修得を確実なものにするため、注射や点滴などの技術は小グループに分かれ、手順書を基にモデルを用いて繰り返し練習し、さらに到達度をチェック表で確認し、実施技術の振り返りを行う。これらを通して看護の基礎知識・技術・態度が修得されることをねらいとしている。	
		基礎看護学実習Ⅰ	看護学概論の講義で理解した概念や知識を現場に身を置き、現象を体験することを通して理解を深めることをねらいとする。 学生は看護の対象者と出会い、統合体である人間の価値と尊厳に気づき、あらゆる健康レベルに対して行われる看護実践を見学することを通して、看護とは何かを考える。さらに、実習を通して、これから学ぶ看護学への動機付けとすることを目標としている。 実習場は病棟に限らず、看護師の働く多くの場で同行実習あるいは見学する。実習終了後に、発表会で個々の経験を持ち寄り、共有して学びを深める。	
		基礎看護学実習Ⅱ	1年次の基礎看護実習Ⅰに続いて、2年次に開講される。この科目では、入院患者を受け持ち、日常生活援助の必要な対象の健康問題を、看護過程の展開を通して解決するプロセスを学修する。 日常生活の援助では、既習の看護技術概論や看護技術各論の知識・技術を実践の場で統合し、健康回復への援助のあり方を学修する。また、実習を通して看護者としてのふさわしい態度を養う。	
	地域看護学	地域看護学概論	地域看護が提唱されるようになった背景と地域看護の概念や看護職の役割について理解するとともに、地域での活動理念としてプライマリヘルスケアやヘルスプロモーションの考え方を学ぶ。そして、健康の捉え方と健康に影響する要因について事例を用いて理解を深める。また、場の特性に応じた地域看護の活動について概観する。	

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科　看護師課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		家族看護学	家族看護学の定義と特性を学び、看護における家族の捉えや家族を理解する理論を学ぶ。家族を単位とした家族看護のアセスメント、診断、計画、実践と評価の過程について学ぶ。慢性疾患をもつ患者家族・高齢者の介護や終末期の患者の家族、救急・集中治療を宇ヶている患者の家族などの支援について学ぶ。	
		在宅看護論Ⅰ（在宅療養者の生活と支援）	在宅療養生活を支える看護が求められる社会背景を理解し、在宅療養生活を支える制度や社会資源の活用方法について学ぶ。また在宅看護過程の展開方法を理解し、在宅看護論Ⅱへつなげる。	
		在宅看護論Ⅱ（在宅療養生活の支援の実際）	在宅療養生活を支えるための基本技術と生活支援技術の修得のために、在宅看護の事例から看護過程を考える。そして、褥瘡管理、在宅酸素療法、経管栄養、留置カテーテル管理などについてロールプレイを実施実施する。	
専門教育科目	地域看護学	産業保健	産業保健活動の理念と労働衛生の基本を理解し、労働安全衛生の法的基盤に基づく健康管理活動や職業性疾病の予防対策を学ぶ。特に労働と健康障害の関係を理解し、産業保健活動において看護職が果たす個人・集団・組織への支援活動と実際の職務内容や活動方法を具体的に理解し、労働者個人の健康と安全で快適な職場環境づくりについて学ぶ。	
		学校保健	児童・生徒の身体的・精神的健康状態を理解するとともに、学校保健活動の目的や構造・組織を学び、学校保健活動に携わっている養護教諭の役割と職務内容ならびに実践方法について理解する。また、地域と学校の健康問題の関連性や、地域保健における看護職と学校保健における養護教諭の連携について学ぶ。	
		地域看護学実習	大学がある近隣の地域で、実際に生活の場に出向いて対象に受け入れてもらうという体験を通して、地域で行われる看護の特質、基本を学ぶ。住民の生活や健康にかかわる意識、家族の絆、近隣との関係など傾聴し共感する中で生活をみたり、人間や地域を理解する感性をみがく。住民の多様な生活実態に触れることにより、自己の生活感覚を広げる。　また、聴きとった実態を資料化することを通して、データの処理の仕方や、今後に役立てる手立てを学ぶ。	
		在宅看護論実習	在宅療養者の健康障害が本人と家族の生活へ及ぼす影響を理解し、在宅で療養生活を送るために必要な支援と援助方法を理解する。そして、在宅療養の推進・継続をサポートするケアシステムをについて実際を通して学び、関連機関との連携を考える。これらの一連のプロセスを通して、看護の役割を理解する	
		地域交流実習	地域で暮らしている人々には多様な暮らしぶりがあることを把握するとともに、その生活は対象の価値観に影響を受けることを理解することを目的に実習を展開する。実習を通して、看護職者として生活者の尊厳と主体性を尊重できる能力を育む。実習は、大学周辺の市町村に居住している住民を訪問し、対象の生活状況を把握するとともに、対象が生きてきた中で大事にしていることやうれしかったことなどについてインタビューしまとめる。	
	成人・老年看護学	成人の特徴と生活と健康	成人看護学の概論的位置づけとして、成人各期の特徴と発達課題、成人を取り巻く社会環境と生活、成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策、および成人を看護する際の基本的なアプローチを学ぶ。	
		高齢者の特徴と生活と健康	加齢に伴う身体的・心理的・社会的・霊的特徴を踏まえ、高齢者の生活と健康について理解する。人口の高齢化に伴う高齢者の健康課題と国の高齢者保健・医療・福祉対策について総合的に学ぶ。さらに、高齢者の人権を守り高齢者の生活の質（QOL）確保のために求められる生涯発達の視点と老年看護の機能と役割を学ぶ。人口の高齢化と家族形態の変化を踏まえ、高齢者介護と家族の問題・支援について学ぶ。	
		慢性期看護論	成人期・老年期の慢性的経過をたどる健康障害の特徴と治療経過、患者・家族の特徴と課題、病いとともに生活する人々が直面する思いや困難を理解し、長期にわたり生活の場で療養生活を送る対象者へのセルフケアを伴う社会生活を支える看護実践とその看護展開方法を学ぶ。	
		急性期・周手術期看護論	病気、外傷、手術などにより身体侵襲を受けた対象の生体反応や心理反応を理解し、合併症予防と早期回復のための急性期の看護を学ぶ。急性期看護の概念、生命の危機状態にある対象の看護(救急看護)、手術を受ける対象の看護(周手術期看護)、クリティカルな状態(急性の脳・神経機能障がい、呼吸機能障がい、循環機能障がい、消化機能障がい)にある対象の看護、化学療法・放射線療法を受ける対象の看護を含む。	
		回復期（リハビリテーション）看護論	病気が回復したものの、様々な機能障害が生じた場合には、社会復帰するために多くの支援（医療、福祉、社会資源）を要するときには、リハビリテーションの視点からアプローチすることは有効である。本科目では、リハビリテーションの概念を理解し、看護の特徴と具体について学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要 （看護学部看護学科　看護師課程）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		緩和ケア・終末期看護論	本学の理念であるキリスト教精神に基づき、緩和ケアを必要とする終末期にある人や家族に対して、生きることを支える看護について学ぶ。患者や家族への援助では、全人的苦痛（身体的・精神的・社会的・霊的）のアセスメント方法と実際的な看護について学ぶ。さらに、人間の尊厳や人権、生と死についても考える機会を持つ。また、緩和ケアチームを構成する専門職やそれぞれの専門性、役割および責任について学修し、緩和ケアチームにおけるアプローチの重要性や看護師としての役割を理解する。	
		慢性期看護実習	慢性疾患をもちながら生きる人の、発達段階や健康レベル、治療過程、個別的特性、家族や介護者を含む環境要因を総合的にアセスメントし、個別性や状況に合わせた看護ニーズを考え、セルフケアを伴うその人らしい生活を支える看護実践を学ぶ。	
専門教育科目	成人・老年看護学	急性期看護実習	侵襲的治療である手術療法を受ける成人期・老年期にある急性期患者を全人的に理解し、手術侵襲からの回復および社会復帰への適応を促進するための看護実践能力を養う。さらに、手術室や外来において実践されている看護と医療チームにおける看護師の役割について学ぶ。	
		回復期看護実習	回復期（リハビリテーション）看護について、実践を通して理解するために、成人や高齢者を対象にリハビリテーション過程にある患者を受け持ち、様々な機能障害を抱える状態から、その人らしく施設や自宅で過ごせるために、リハビリテーション看護の主に機能回復積極期の看護について学ぶ。	
		緩和ケア・終末期実習	終末期にある人や家族の全人的苦痛（身体的・精神的・社会的・霊的側面）を理解し、それらの苦痛に対するアセスメントの方法や苦痛緩和に対する看護技術を学ぶ。また、身体的衰弱が進行するなかでも日常生活を安楽に過ごすことができ、家族と共に安らかな最期が迎えられるように援助する方法を学ぶ。また、緩和ケアチームに参加しているそれぞれ専門職の役割を理解し、その中で看護がどのような役割を担っているのかを学ぶ。終末期の特徴である死について考えるとともに、生についての思索を深める。	
		老人福祉施設実習	高齢者を総合的に捉え、高齢者の健康レベルや生活障害を理解し、施設を利用している高齢者が日々安心して日常生活送ることができるようにするための看護実践を学ぶ。また、高齢者を支える家族や関連職種との連携をを通して、チーム内における看護師の役割を学ぶ。また、施設内では高齢者の生活介護やレクリエーションに参加し、日常生活援助の方法を学ぶとともに、高齢者のＱＯＬを高めるための援助方法を考える。	
		看護理論	看護実践を行っていくうえで基盤となる主に中範囲理論について理解を深める。看護理論発展の歴史的流れを知り、様々な看護理論から全人的に人を捉えることについて思索を深め、成人のセルフケアを育む理論、成人学習を促進する理論について学ぶ。また、理論の臨床事例への適応について学び、実習に活用するための基盤とする。	
	小児看護学	子どもの特徴と生活と健康	子どもの成長・発達の特徴を知り、各発達段階における子どもと家族への看護について学修する。また、医療・看護・福祉の変遷を知り、小児看護の現状や看護師に求められている役割について学修する。	
		子どもの健康と看護	子どもを家族や社会の中で成長発達していく存在として理解し、健康を維持・増進するための子どもと家族に対する看護を学修する。具体的には、病気・障害を持つ子どもと家族の特徴、小児期の疾病の経過と症状、アセスメントに必要な技術、子どもの基本的生活習慣の支援方法を知り、それぞれに必要な看護を学修する。	
		健康問題をもつ子どもと看護	小児期の健康障害によって生じる子どもの反応や成長発達への影響、家族への影響を踏まえ、健康状態に応じた具体的な看護の方法について学修する。また、小児看護で必要となる与薬、抑制、バイタルサインズ測定に関する看護技術を習得し、発達段階を踏まえた看護過程の展開についても学修する。	
		小児看護学実習	幼稚園、児童発達支援事業所、小児科外来、小児科病棟で実習を行い、成長発達の途上にある子どもとその家族を体験的に理解し、子どもの成長発達と健康を促す看護と、子どもと家族の健康を回復するための看護を学修する。	
		女性の特徴と生活と健康	女性看護学の基盤となるリプロダクティブヘルス／ライツの概念のもと、すべてのライフステージにある女性が自らの健康に対する自己決定権を持ち、健康的なライフスタイルがとれるよう促す健康教育と環境つくりについての支援を学ぶ。また、女性を取り巻く社会の変遷と現状を学習し、母子保健施策について理解し、その活用について学修する。	

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科　看護師課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
	女性看護学	リプロダクティブ・ヘルスと看護	現代の周産期におけるハイリスク因子とその背景について理解し、妊娠期・分娩期・新生児期・産褥期の各期の異常に関する病態生理と必要な看護について理解できる。また、さまざまな分娩様式においても必要な看護を学習し、模擬事例にて妊娠・分娩・産褥期、新生児期に対するフィジカルアセスメント・看護診断・保健指導などを養う。	
		女性の健康問題と看護	リプロダクティブヘルスについて自己決定権を持ち、子を産み育てるにあたり、生じる遺伝と不妊の問題、それに関する倫理的問題について看護師の立場で考えること、そして「母親になること」への援助について必要な看護技術を学ぶ。また、生殖器の解剖生理を基に妊娠期・分娩期・産褥期における特徴、および胎児・新生児の正常な経過について理解し、母親と家族のヘルスプロモーションのための看護支援を学修する。	
		母性看護学実習	人間を全人的に理解する視点のもとで、周産期における母子の健康レベルや生理的変化への適応過程、母子とその家族の役割獲得状況から、必要な産後ケア、および育児支援等についての看護を実践し、女性を中心としたケアの在り方を学ぶ。そして、生命の尊厳、親子の絆形成や愛着形成、新たな家族の構築についての学びを深める。	
専門教育科目	精神看護学	こころと健康	精神障がいの有無にかかわらず，あらゆる人々のこころの状態を対象にして，精神的健康の回復、維持増進をはかることをめざす精神看護学の特徴と基本概念を学ぶ。精神保健看護の理念、精神保健福祉法における看護の特徴を理解した上で、患者－看護者の治療的関係を展開するために必要な基礎的な理論と技法を学習し、精神医療看護の歴史について思考を深め、精神保健医療看護を展開していくうえで求められる精神障害者の人権尊重・倫理的配慮、看護者の役割について学修する。	
		こころの健康増進と看護	さまざまな社会生活における心の健康と、危機的状況およびそれらに影響を与える諸要因を理解し、健全な心の発達への援助に必要な基礎的知識を学ぶ。 精神看護はあらゆる看護の領域において心の健康にかかわる。従って精神保健論では、心の健康を先ず理解し、心の作用に影響する諸要因と性の概念も含め多角的視野から学び、心の健康のために適切な看護が行えるように学修する。	
		こころを病む人と看護	精神の健康問題を抱えて入院している患者および地域で生活をしている人や家族に対し、その人らしく生きることを支える為の諸制度と諸理論、ならびに具体的な看護アプローチ法を学ぶ。精神症状のアセスメント法と主な精神疾患患者への看護アプローチの基本や精神障害者の家族に関する基本的知識を理解を深めるとともに、セルフケア看護理論を用いて看護過程を展開を試み、臨床実習につなげる。	
		精神看護学実習	精神科病院において、入院治療を受けている人々ならびにデイケアに通う人々への看護を、実践および見学を通して学ぶ。入院中の対象者の置かれた状況に応じた看護過程を使った看護展開を行うことにより精神看護を学習する。また、病院内の作業療法や患者ミーティング、デイケアにおける対象の活動の見学を通して、精神障碍者の社会復帰システムの実際を学ぶ。さらに、対象との関係を見つめる中でプロセスレコード等を通し、自己を洞察し、自己を啓発することを目指す。	
	国際看護	国際看護論	世界のグローバル化に伴い、看護活動も国境を越えて拡大している。そのため看護職は、国際的な視野から健康課題を考えることができ、国際社会で活躍できる能力を養うことが必要である。本科目では、国際看護の概念を学習し、世界における健康格差、紛争・災害などに伴う国際的な問題とそれに対する戦略の潮流を理解したうえで、実際の国際看護活動に必要な知識を得ることで、異文化を理解し国際協力について自らの考えを持ち主体的に取り組んでいくことを目標とする。	
		国際保健医療問題	世界で人びとの健康を脅かす問題についての概況、各地域での特徴と要因とその戦略について学ぶ。発展途上国での重要な健康問題をとりあげる。母子保健では、子供達の健康問題を把握し、その対策を学ぶ。また母体側の健康に関しては女性の視点から健康問題を捉え、女性を守るためのアプローチを理解する。次に発展途上国での深刻な健康問題である感染症をとりあげ、動向と対策について学ぶ。	
		国際看護実習Ⅰ (欧米の看護体験)	「国際看護論」で基本的知識を学習してうえで、本学姉妹校であるサザン・アドベンチスト大学(米国テネシー州)における2週間のプログラムに参加する。　授業や施設/病院見学を通して、現地における健康問題や保健医療状況、看護職者の活動の実際を学ぶ。また、現地看護学生、ホームステイによるホストファミリーとの交流を通して、日本と異なる社会、文化、文化的背景を理解し、国際交流・協力関係を築く姿勢を修得する。	

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科　看護師課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	国際看護	国際看護実習Ⅱ (アジアの看護体験)	「国際看護論」で基本的知識を学習してうえで、SDA教団のNGO組織であるADRA(Adventist Development and Relief Agency；アドラ)がアジアの発展途上国において活動している現場を訪ねる。　保護施設や医療機関を訪問し、住民参加型ワークショップへの参加を通して、現地の健康問題や保健医療状況を知り、問題解決のための看護の役割について学ぶ。また、ホームステイを通して現地の人々と異文化間コミュニケーションを体験し、日本と異なる社会、文化、文化的背景を理解し、国際交流・協力関係を築く姿勢を修得する。	
	看護の発展科目	医療安全管理学	看護における医療安全管理の在り方を学修する。第一に医療事故予防の観点から、医療事故の背景や要因を明らかにするとともに、「看護専門職者としての姿勢」、「インフォームド・コンセント」、「患者の権利擁護」の意味について学ぶ。さらに安全な医療を実践するために、医師や看護師をはじめとした医療従事者により医療チームが編成され、事故を未然に防ぐために協働している実際を学ぶ。第二には院内感染防止であり、感染源・感染の成立・院内伝播の様式を学び、院内感染の発生報告と調査(サーベイランス)の実際について学修する。	
	看護の発展科目	看護倫理	医学・医療技術の進歩や高齢化社会に伴い、看護の質や量の向上のニーズはますます高くなっている中、人の命に直接関わる看護師は倫理規定(Code of Ethics)を熟知して臨床に臨むことが必要である。本科目では医療倫理の中の「看護倫理」と「生命倫理」の基本的内容について学ぶ。 　看護は専門職集団として独自の看護倫理を持つが、その明文化されたものである日本看護協会と国際看護師協会の倫理規定(Code of Ethics)について学び、臨床やケアの行われる場に於いて問題が発生したときに解決策を考えることのできる基礎的知識を修得する。 　また、生命倫理の理論的基礎を学び、それを基礎に現代の臨床における代表的な倫理的諸問題を検討する。毎回ケーススタディーを具体的に分析する作業を通して、臨床に出たときの倫理的ジレンマに対する感受性や分析力を養う。	
		看護展開演習Ⅰ	実習において必要な急性期・周手術期の患者の看護過程の展開とそれに関わる技術のスキルアップを、事例と演習を通して習得する。事例を用いて、看護の展開に必要なデータを収集し、情報から患者の状況をアセスメントし、看護問題を抽出、全体像をつかみ優先順位の高い看護問題に対して根拠に基づいた具体的な看護計画を立案するという一連の流れを学習する。また、関連する技術演習を通して実習での看護展開に必要な看護技術を学修する。	
		看護展開演習Ⅱ	領域別看護実習において必要な看護過程の展開とそれに関わる技術のスキルアップを、事例とシミュレーションを通して模擬体験し、看護実践能力を高める。演習を通して高齢者を援助する看護技術を理解する。また、シチュエーション・ベースド・トレーニングを通して、臨床場面で行われる看護技術を現場に近い状況の中で演習することにより、具体的な患者のイメージがつくようにする。3年次後期からの領域別看護実習の履修要件として、この科目の単位の取得を課す。	
		スピリチュアルケア	人間は身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、霊的苦痛による非日常的な危機に直面する時、生きる意味を自問する。そして、人間存在の意味を問いはじめたとき、その解決を人間を超えた超越者や、内面の基本的源泉との出合いにより見出す。 この授業では、スピリチュアルケアの計画を立て、悩み苦しむ人の側にいる勇気とスピリチュアリティに目覚め、内面の発見や超越者の存在に気づけるよう支援する看護実践の基盤を学ぶ。とくに、終末期の患者のスピリチュアルケアについて、死による存在の消滅よりも大きい究極的な意味を見出せるような支援について考える。	
		スピリチャルケア実習	人間は身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、霊的苦痛による非日常的な危機に直面するとき、生きる意味や目的について自問する。そして、人間存在の意味について問いはじめたとき、その解決を人間を超えた超越者や、自己の内面の変革や強みとの出会いにより見出すと言われている。 この実習では患者を見舞う経験を通し、病む人の心に寄り添うことについてその意味を理解することや、人生の意味や死の不安に直面している患者に、また老いを生きる高齢者に寄り添い、スピリチュアルケアの実際を学ぶ。さらに、個としての自己、患者と居る自己、グループの中の自己を振り返り、自己の洞察を図る。	

授　業　科　目　の　概　要

（看護学部看護学科　看護師課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		看護研究の基礎	本科目では、質的・量的な研究方法を用いた科学的な研究プロセスの基礎的知識を身につけることや、今後臨床の中で［研究論文をクリティークしながら使うこと］ができるようになることをねらいとする。 この科目は、卒業研究や、臨地実習で課題となる事例研究などの基盤となる。 授業方略は、研究発表のプレゼンテーションや文献検索の方法の実際を知るための演習、課題をグループで取り組むグループプロジェクトを用い、学生の看護研究への興味と、基礎的能力を修得する。	
		看護専門職論	看護職者がみずからの職業を専門職として位置づけていることが多く見受けられるが、果たして社会学の視点から見たときに、「専門職」といえるだろうか。専門職の定義を起点にし、看護職が専門職として社会的承認を得るのには、どのような要件が必要かについて、定義にある要件として、看護研究と独自の知識体系、看護教育制度、看護と法、看護と職能団体などから検討し、看護職が専門職としての現況と課題を理解し、今後を展望する。	
		災害看護学	日本だけではなく、世界各地を襲う自然災害、各地で繰り返される紛争やテロ、感染症の蔓延、そして貧困の中にも、神様から愛された人間が懸命に生きている。 看護者は、そのような人々に勇気と希望、そして癒しを与える存在になるために災害現場をクリティカルに分析する能力と、多様な現象に対する状況対応能力、既成概念に頼らない創造性、チームで協働する能力が求められる。それにもまして、生命を守ることができない現実と向き合いながら意思決定する看護者としての崇高な理念と不屈の精神が必要であることを学修する。	
専門教育科目	看護の発展科目	卒業研究Ⅰ（研究計画）	主体的に取り組む研究過程を通して、看護研究の科学的アプローチを理解し、研究的な思考と態度を習得する。自らの研究課題について、研究疑問を明確化し、研究計画書を作成するスキルを身につけ、実際に作成する。	
		卒業研究Ⅱ（研究の実践）	「卒業研究Ⅰ」で作成した研究計画書に基づいて、指導教員のもと、学生個々が関心がある研究テーマを探求し、研究論文を作成する。	
		総合看護実習	本科目は、領域別実習を土台として、さらに興味ある健康レベルや、発達段階にある対象の健康問題に焦点をあてて実習を行い、卒業間近の学生のより高い看護実践能力の育成をねらいとしている。 学生自ら患者の問題解決に必要な知識・技術・態度を積極的に学ぶことが期待されている。従って、ある者は看護診断・成果・介入のリンケージ、ある者は特定の看護理論を活用して看護を実践したり、看護管理に重点を置いて実習を行うなどの内容が含まれる。	
		看護診断論	「看護過程の基礎」および「看護展開演習Ⅰ・Ⅱ」の学修をさらに発展させた、看護診断（NANDA）・看護成果（NOC）・看護介入（NIC）を理解することが目的である。NANDA看護診断を復習の上、看護成果分類、看護介入分類について基本的な知識を学ぶ。さらに、NANDA・NOC・NICのﾘﾝｹｰｼﾞの現状を知ることをねらいとする。 実際的な理解を深めるために、ケーススタディーを用いてNANDA・NOC・NICの展開を学び、本学で学修してきた看護過程の転科方法と比較・検討し、それぞれの特徴について考える。さらに、今後の臨床・研究・教育の場における活用の展望や考える。	
		看護管理学	看護は社会的システムの中で、組織化され、管理・運営されている。 社会文化の中での看護の営みを分析し、質の高い看護サービスを展開するために必要な基礎的理論を押さえながら、様々な看護現象を看護管理システムで捉えて、アプローチする手法を学ぶ。 　看護管理の歴史と定義を学ぶとともに、リーダーシップ・メンバーシップ、リスクマネージメントや看護管理学に関連する理論などを学ぶ。また、医療における他職種との連携・協働について、看護師のキャリア・ディベロップメントやスペシャリストの活用など、看護管理の立場から考える。 看護管理の立場から医療・看護サービスの質の保証と今日的課題を学修する。	
		看護における補完療法	補完療法は、西洋医学以外の医学全般を指し、西洋医学とは異なった特徴を持ち、近年特に注目を集めている。効果は漸進的であるが、人体に無害なものが多く、継続的な健康維持にとって有益である。また、その中には看護実践に大いに利用できるものがある。 看護が活用できる補完療法についての知識を深める。科学的エビデンスの十分確立されていないものもあるが、現在明らかになっている、補完療法の一部の技術を、演習を通して学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要 （看護学部看護学科　看護師課程）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		論文講読（看護）	英語で書かれた、看護・医療に関する良質な論文を読むことによって、学術論文に慣れ親しみ、要点を理解する基礎的なアカデミック・リーディングのスキルを身につける。	

授　業　科　目　の　概　要 （看護学部看護学科　保健師課程）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学原論	公衆衛生看護学の成立過程や公衆衛生との関連から公衆衛生看護学の成立基盤を明らかにし、公衆衛生看護の活動理念や特徴について学修する。公衆衛生看護の歴史的探究から、先駆的な先人のあゆみにスポットをあて、公衆衛生看護マインドを修得する。その活動から公衆衛生看護活動の対象のとらえ方や活動のプロセスを導き出し、現在の活動プロセスと同様であり普遍的な活動であることを理解する。そして、公衆衛生看護活動の主体は住民であり、住民とともに活動する意義を理解する。	
		対象別支援技術論	生活の場で暮らす人々のライフステージや健康レベル・障害等の特性に応じた保健師の活動方法を学ぶ。外部講師による講義、施設見学等を取り入れ、地域の実態、社会背景および法的根拠と結びつけて健康課題を捉え、多職種連携や社会資源の活用をしながら展開される保健　活動を理解する。また、個人・集団・地域が健康課題に対して、主体的に取り組むことができるための支援および介入方法について学ぶ。具体的には、ライフサイクルと公衆衛生看護活動について理解した上で、母子保健活動、成人・高齢者保健活動、難病保健活動、感染症と保健活動、生活習慣病と公衆衛生看護活動、障害児・者と公衆衛生看護活動のについて具体的に学修する。	
		公衆衛生看護活動展開論Ⅰ（理論）	保健・医療・介護・福祉に関わる分野横断的なアプローチによる地域包括ケアシステムの推進を図り、誰もが暮らしやすいまちづくりを目指した公衆衛生看護活動を展開するための基盤となる地域診断の目的や方法について理論を用いながら学ぶ。特に情報収集の視点及び地域アセスメントに基づく健康課題の抽出と、健康課題を解決するための公衆衛生看護活動計画の立案および評価までのプロセスを習得し、公衆衛生看護活動展開論Ⅱの演習につなげられる能力を養う。	
		公衆衛生看護活動展開論Ⅱ（演習）	公衆衛生看護活展開論Ⅰで学んだ基本的知識をもとに、保健統計、疫学の知識を統合し、地域とそこに暮らす人々の生活と健康を多角的かつ継続的にアセスメントして、地域の顕在的・潜在的健康課題を明らかにし、科学的根拠に基づいた公衆衛生看護活動の展開を理解する。事例をとおした演習や、実際に公衆衛生看護学実習Ⅰの実習地へ地区踏査に出向いて行う地域診断演習など実践力を養うためのプログラムを取り入れる。またその成果を資料にまとめて発表会を実施し、プレゼンテーション技法についても学びを深め、多職種連携および住民協働を円滑に行う方法についても理解する。	
		地域ケアシステム論	地域住民が住み慣れた地域での生活が継続できる地域ケアシステムの構築の重要性を理解し、そのための公衆衛生看護の役割と実際を理解する。 事例を用いて、地域ケアシステムの構築が実際どのように行われているか検証する。	
		組織協働活動論	公衆衛生看護活動において地域組織活動を育成・支援することは、住民自らがより健康的で主体的な地域づくりに取り組むことができ、ソーシャルキャピタルの醸成にもつながる。 　本科目では、公衆衛生看護における地域組織活動の意義を理解したうえで、地域組織を育成できる能力の修得のために、保健師が組織活動の育成から自立まで関わった事例から、組織の発展段階に応じた保健師の支援の実際を学ぶ。	
		健康危機管理論	大規模自然災害や感染症、科学物質および薬害による健康被害など国民生活の安全を脅かす事態に対して、被害を最小限にし、地域住民の生活を守るための公衆衛生看護活動の実際を理解する。特に、大規模自然災害時での保健師活動を概観し、被災地における保健師の役割について考える。	
		公衆衛生看護管理論	地域住民の健康生活を支援するために展開する公衆衛生看護管理の機能と意義を理解するとともに、公衛生看護管理の実際を理解する。また、統括保健師の役割や機能、現任教育のあり方についても学ぶ。	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ（市町村）	地域住民の健康を守り向上させるために行われる、公衆衛生看護活動の実際について、住民に身近なところで展開される市町村保健師の活動を中心に学ぶ。 地域で生活している人々の生活実態を把握し、地域の健康課題を明らかにする地域診断の必要性とその実際を修得する。さらに、地域診断結果に基づく具体的な活動を体験し評価することにより、公衆衛生看護活動の実践技術を修得するとともに、活動の改善について理解する。また市町村における公衆衛生看護管理についても学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要 （看護学部看護学科　保健師課程）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学実習Ⅱ （保健所）	健康なまちづくりを目指すために健康福祉センター（以下、「保健所」という。）が行う広域的、専門的かつ技術的拠点としての機能と社会情勢や地域住民のニーズに応じた活動の実際を学ぶ。特に健康危機管理の拠点としての機能や、管内市町村との連携協働体制、地域医師会の協力のもとに行われる医療機関との連携、介護・福祉機関、学校、職域等との連携調整機能について理解する。また、保健所保健師の所属内多職種との協働や、管内市町村および医療機関等との協力を得て展開される活動の方法や技術を理解する。	
		公衆衛生看護学実習Ⅲ （産業保健）	事業所の特性および職業に起因する健康障害の予防と労働者（社員）の健康保持増進、ならびに安全で快適な作業環境の整備を目指す産業保健活動の実際を学ぶ。また、事業者と労働者（社員）が協働し、組織的に行う保健活動の実際から産業看護職の役割を学ぶ。	

5　卒業要件等について

１．本学部での卒業資格を得るためには、学則で定められた修業年限の期間在学し、卒業認定に必要な単位を取得しなければなりません。

２．卒業認定に必要な単位数（卒業要件）は、課程によって異なります。詳細は、次の通りとなっています。

１）看護師課程で卒業する場合は、表２-（１）に示される１２８単位以上を取得すると卒業が認定されます。

２）３年次に保健師課程を選択し保健師課程で卒業する場合は、表２－(２)に示される１４０単位以上を取得すると卒業が認定されます。

３．当該年度の「開講科目一覧」(表４～表７を参照）から、卒業認定に必要な単位を計画的に履修しなければなりません。ただし，実習科目についての詳細，実習のグループ編成等は，別に発表します。

表２－(１)　　卒業要件（看護師課程）

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">区　　分</th><th colspan="3">修得すべき単位数</th><th rowspan="2">合計</th></tr>
<tr><th>必修科目
履修単位</th><th>計</th><th>選択科目
履修単位</th></tr>
<tr><td rowspan="5">教養
教育科目</td><td>アドベンチストの
信仰と生活</td><td>６単位</td><td>６
単位</td><td>４単位以上</td><td rowspan="5">２５単位以上</td></tr>
<tr><td>人間の理解</td><td>２単位</td><td rowspan="5">１０
単位</td><td rowspan="5">５単位以上</td></tr>
<tr><td>文化・社会の理解</td><td></td></tr>
<tr><td>情報科学</td><td>４単位</td></tr>
<tr><td>基礎科学</td><td></td></tr>
<tr><td>語学の修得</td><td>４単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専門基礎
教育科目</td><td>人間と健康</td><td>１５単位</td><td rowspan="2">２３
単位</td><td rowspan="10">５単位以上</td><td rowspan="10">１０３単位以上</td></tr>
<tr><td>環境と健康</td><td>８単位</td></tr>
<tr><td rowspan="9">専門教育
科　　目</td><td>基礎看護学</td><td>１３単位</td><td rowspan="9">７５
単位</td></tr>
<tr><td>地域看護学</td><td>１０単位</td></tr>
<tr><td>成人・老年看護学</td><td>１７単位</td></tr>
<tr><td>小児看護学</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td>女性看護学</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td>精神看護学</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td>国際看護</td><td>１単位</td></tr>
<tr><td>看護の発展科目</td><td>１６単位</td></tr>
<tr><td>計</td><td></td><td colspan="2">１１４単位</td><td>１４単位以上</td><td>１２８単位以上</td></tr>
</table>

表２－（２）　　卒業要件（保健師課程）

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">区　　分</th><th colspan="3">修得すべき単位数</th><th rowspan="2">合計</th></tr>
<tr><th>必修科目
履修単位</th><th>計</th><th>選択科目
履修単位</th></tr>
<tr><td rowspan="6">教養
教育科目</td><td>アドベンチストの
信仰と生活</td><td>６単位</td><td>６
単位</td><td>４単位以上</td><td rowspan="6">２５単位以上</td></tr>
<tr><td>人間の理解</td><td>２単位</td><td rowspan="5">１０
単位</td><td rowspan="5">５単位以上</td></tr>
<tr><td>文化・社会の理解</td><td></td></tr>
<tr><td>情報科学</td><td>４単位</td></tr>
<tr><td>基礎科学</td><td></td></tr>
<tr><td>語学の修得</td><td>４単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専門基礎
教育科目</td><td>人間と健康</td><td>１５単位</td><td rowspan="2">２４
単位</td><td rowspan="11">自由に選択</td><td rowspan="2">２４単位以上</td></tr>
<tr><td>環境と健康</td><td>９単位</td></tr>
<tr><td rowspan="9">専門教育
科　　目</td><td>基礎看護学</td><td>１３単位</td><td rowspan="9">９１
単位</td><td rowspan="9">９１単位以上</td></tr>
<tr><td>地域看護学</td><td>１１単位</td></tr>
<tr><td>公衆衛生看護学</td><td>１５単位</td></tr>
<tr><td>成人・老年看護学</td><td>１７単位</td></tr>
<tr><td>小児看護学</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td>女性看護学</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td>精神看護学</td><td>６単位</td></tr>
<tr><td>国際看護</td><td>１単位</td></tr>
<tr><td>看護の発展科目</td><td>１６単位</td></tr>
<tr><td>計</td><td></td><td colspan="2">１３１単位</td><td>９単位以上</td><td>１４０単位以上</td></tr>
</table>

４．卒業した者に、卒業証書及び学士（看護学）の学位が授与されます。

５．取得資格

【看護師課程カリキュラム適用】[表２－(１)]

看護師課程カリキュラムには、看護師国家試験受験資格を得るための教育内容と単位数が、すべて含まれています。従って、本学の卒業要件を満たすと看護師国家試験受験資格が得られます。

【保健師課程カリキュラム適用】[表２－(２)]

保健師課程カリキュラムには、看護師及び保健師国家試験受験資格を得るための教育内容と単位数が、すべて含まれています。従って、本学の卒業要件を満たすと看護師国家試験受験資格と保健師国家試験受験資格が得られます。

６．看護師と保健師の国家試験は、４年次後期の２月に行われます。１年次から、４年次後期２月の国家試験受験を念頭に置いて学修してください。

看護師免許を取得しないと保健師国家試験に合格しても保健師免許は交付されません。

７．学修進度にあわせた履修とその計画の留意点

本学では、学習の順序性を重視し、科目を体系的に配置しています。そのため、学修を計画的に進めていくことが求められます。

１）当該年度開講の科目一覧（表４～表６）から、卒業認定に必要な単位を計画的履修してください。

２）修業年限期間中の同一の科目の履修は、２回までです。従って、必修科目の成績評価が２回「不可」となると卒業できません。

３）必修科目は、配置されている年次にすべて単位を取得してください。取得できなかった場合、単位を取得できなかった科目が配置されている年次に留まること（留年）になります。

４）留年となった場合、すでに取得した単位は有効であり、単位取得できなかった科目を再履修し、単位を取得すれば次の年次に進むことができます。

５）留年となった場合、再履修科目のみを履修することになります。ただし、その学期中は、再履修科目の理解を深めるために、すでに単位取得している関連科目の聴講をお勧めします。詳細は、再履修科目の科目責任および学年アドバイザーに相談し、聴講する科目の決定や学修計画を立て、学修が深まるための取り組みをしてください。

６）前提履修科目

後期科目では十分な知識・技術修得するために、事前に履修した単位を修得しなければならない科目（前提履修科目）が表３－１のとおりあります。これらのことに十分注意をし、学修計画を立ててください。

表３－1　　前提履修科目一覧

配当年次	科目名	前提履修科目
1年次	聖書Ⅰ	キリスト教概論
	地域交流実習（選択科目）	地域看護学概論・地域看護学実習
2年次	基礎看護学実習Ⅱ	疾病・治療学Ⅱ・ヘルスアセスメント・慢性期看護論
	子どもの健康と看護	子どもの特徴と生活と健康
	国際看護学実習	国際看護論（単位取得の見込み）
3年次	国際看護学実習Ⅱ	国際保健医療問題（単位取得の見込み）
	領域別実習	3年次前期のすべての必修科目
4年次	卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰ
保健師課程	公衆衛生看護学原論・対象別支援技術論・公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	2年次までのすべての必修科目
	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	3年次のすべての必修科目
	公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ・地域ケアシステム論・組織協働活動論・健康危機管理論の単位取得見込み
	公衆衛生看護管理論	公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅱ
	総合看護実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅱ

＊例：「聖書Ⅰ」は、「キリスト教概論」の単位を取得していることが履修の前提となる。

7）養護教諭免許申請を希望する場合

保健師免許を基礎資格として、卒業後に養護教諭２種免許を申請することを希望する者は、教育職員免許法施行規則第６６条の６に定められる４科目を表３の通り履修してください。これらの科目は１年次２年次に開講されているので保健師課程に進むことが未定であっても可能性がある場合には履修してください。

単位取得の証明は、単位取得証明書に「教育職員免許法施行規則第６６条の６に定められる科目の単位」として記載されます。

表３－２　　教育職員免許法施行規則第６６条の６に定められる科目

教育職員免許法施行規則に定める科　目		左記に対応する三育学院大学の授　業　科　目		授業を行う年次・期	必修・選択の別
科　目　名	単位数	科　目　名	単位数		
日本国憲法	2	日本国憲法	2	２年・後期	選択
体　　育	2	スポーツ科学Ⅰ	1	１年・前期	選択
		スポーツ科学Ⅱ	1	１年・後期	選択
外国語コミュニケーション	2	英会話Ⅰ	2	１年・前期	必修
		英会話Ⅱ	2	１年・後期	必修
情報機器の操作	2	情報科学	2	１年・前期	必修
法定単位数合計	8	単位数合計	１０		

6　保健師課程を選択する場合

保健師国家試験受験資格の取得を希望する学生は、保健師課程を選択し、保健師課程に定められた科目を履修し、所定の単位を取得しなければなりません。３年次から保健師課程を選択することを希望する学生は、保健師課程選択者選抜に係る審査を受けてください。

１．保健師課程の概略

１）　定員：１２名

２）　教育課程

保健師課程を選択した学生は、看護師国家試験受験資格必要単位数のうちの必修科目に関する科目のほかに、専門基礎教育科目の保健統計演習１単位、専門教育科目の地域看護学の学校保健１単位とともに、専門基礎教育科目の公衆衛生看護学分野１１科目１５単位の修得が課せられ、保健師国家試験受験資格必要単位数として１４０単位以上の修得が要件となります（３０ページ表２－(２)参照)。

なお、保健師課程に定められる専門教育科目の公衆衛生看護学分野１１科目は、審査により、保健師課程選択者として決定した学生のみが履修できるもの

とし、それ以外の学生のこの分野の科目の単位認定や聴講履修は認められない。

３）保健師課程の履修要件

Ｐ３２　表３-１を確認して下さい。

２.保健師課程選択者選抜に係る審査

３年次から保健師課程を選択することを希望する学生は、２年次後期に実施（予定）保健師課程選択者選抜に係る審査（以下、審査と記す）を受けてください。

１）審査の受験資格

卒業後は保健師として公衆衛生に貢献したい学生で、以下の条件をすべて満たしていること。

（１）2年次前期までの GPA が原則として 2.7 以上であること。

（２）１年次および２年次前期までの必修科目単位を、科目の配当された年次において、全て取得していること。

（３）２年次前期科目である保健統計演習を修得していること

２）申込時期

２年次後期の指定された期日までに、教務課から配布される以下の必要書類を教務課に提出してください。

【必要書類】

① 志願書

② 保護者の同意書

③ ２年次前期までの成績証明書

３）審査

書類、小論文および面接により審査する。

面接は、集団討議面接および個別面接とする。審査の時期は別に公示する。

４）発表

教務課より受験者および保護者に審査結果を伝える。

５）資格の喪失

審査により保健師課程選択者として決定した者であっても、２年次後期必修科目において単位取得できなかった場合は、決定を取り消すこととする。

７　単位の計算方法

本学の教育課程は、単位制を採用しています。単位制とは、卒業要件を取得単位数で表す制度です。科目ごとに単位数が決められています。

講義・演習は、１５時間～３０時間の授業をもって１単位、実習は、４５時間の授業をもって１単位です。（学則第９条）

８　履修登録について

授業科目を決めて授業を受けることを履修するといいます。授業は、勝手に自分で選んで教室に行けばよいというものではありません。決まった手続きをした上でないと授業科目の履修はできません。この手続きを「履修登録」といいます。

履修する科目（必修科目・選択科目）は、すべて自分で登録しなければなりません。履修登録を怠ると、授業に出席していても試験が受けられず、単位認定もされません。

履修登録は年度始めの指定日に必ず行ってください。一度登録した科目は、必ず受講し、試験を受けなければなりません。（教務規程第１４条）

１．　卒業認定に必要な単位を、各課程のカリキュラム[表１－(１)～表１－(２)]および「卒業要件」[表２－(１)～表２－(２)]で確認し、計画的に履修してください。

２．　必修科目について、配当されている年次に必ず履修してください。

３．　選択科目について、「カリキュラムの構成」と「卒業要件」[表２－(１)～表２－(２)]を熟読し、以下の点に留意して履修する科目を決定してください。

１）教養教育科目の科目群≪アドベンチストの信仰と生活≫から、必修科目と選択科目をあわせて<u>１０単位以上</u>を履修しなければなりません。

２）「キリスト教概論」（必修）は、Ａ・Ｂの２クラスに編成します。Ａはキリスト教の背景のある学生、Ｂはキリスト教の学びが初めての学生を対象とします。

３）高校で生物を履修していない場合は、「生物学」を履修することが望ましいです。

４）「情報科学」は、パソコンを用いて（エクセル、ワード、パワーポイント）を学び、今後の専門的な研究活動に役立てることができる科目です。

５）選択科目には前提履修科目が設定されている場合もありますのでＰ３２　表３－１を確認して下さい。

４．　一度単位が認定された科目の再履修はできません。

５．　同一年度内に同一科目を２度履修することはできません。但し、領域別実習科目は一部４年次（前期）に実習が行なわれますが全て３年次後期科目とします。

9　履修登録の手引

Ａ．　時間割について

１．時間割をよくみて選択科目を選んで履修してください。科目によっては不定期な曜日、時限に開講されるので、注意してください。

２．科目名の後に「Ａ」、「Ｂ」と記されているのはグループ分け等を意味するもので、同一科目です。従って重複して履修することはできません。

３．グループ分けのある科目について

キリスト教概論（必修）	Ａ・Ｂ	それぞれのグループ分け表に従って登録してください。グループ分け表は看護学科の掲示板にて発表いたします。
英会話Ⅰ・Ⅱ（必修）	Ａ・Ｂ	
情報科学（必須）	Ａ・Ｂ	

Ｂ．履修方法について

授業科目は、学年ごとに開講する科目が決まっています。当該年度開講科目一覧（表４～表７）から、卒業に必要な履修単位を計画的に履修しなければなりません。科目内容は、授業概要(シラバス)を参照してください。

以下に、特に履修するときの注意点について説明します。

１）授業科目には、必修科目と選択科目があります。

①必修科目：必ず履修しなければなりません。開講年次で履修してください。

②選択科目：自由に選んで履修できます。

２）授業科目は、条件が許せば全て履修することができます。

３）履修登録をしていない授業科目（未登録科目）は、単位が認められません。また、登録が間違っていた場合も単位が認められません。充分注意してください。

4）上級の学年の授業を、下級の学年の学生は履修できません。

5）同じ時限に、２つ以上の授業科目を履修することはできません。履修登録の際も、間違って同じ時限に２つ以上を登録しないよう注意してください。

6）履修登録した授業科目は、許可無く変更できません。

7）一度単位を取得した授業科目は、再履修できません。しかし、単位を取得できなかった科目は、条件が許せば再履修できます。

8）履修申請を書類で提出された際は、原則として返却しませんので必ず本人が控えを保管してください。

C．履修登録についての諸注意

1．卒業に必要な単位を取得することに関しての全責任は本人にあります。履修要項、配布された印刷物、掲示板、三育メール、Google　Classroom の発表等に十分注意して、各々の時期に必要な手続きを行ってください。

2022 年度は必修科目につきましては教務・学生課にて予め登録します。選択科目の履修については登録の確認をしてください。

2．前期（４月）の登録は、今年度１年分を登録しますが、後期の科目については後期初めにも変更（追加、取消）の手続きをすることができます。

D．履修登録及び労作登録の手順

1．学年別履修登録説明会

1）学年毎に担当教員より詳しい説明があります。不明な点は質問し、十分確かめてください。

2）すでに配布された印刷物に記されている事柄の訂正や、新たな発表及び大切な説明がありますので履修要項を持参の上、全員必ず出席してください。

3）時間及び場所は「オリエンテーションスケジュール」で確認してください。

2．履修登録受付まで（事前準備）

1）時間割、履修要項等をよく読み、特に選択科目については、卒業要件や、自分の希望する資格(保健師課程の養護教諭２種免許に必要な科目)、３年生の国際

看護実習Ⅰ・Ⅱの要件となっている科目の履修忘れ等が無いように注意してください。

(教務システムの変更に伴い、それぞれの学年での必修科目については、あらかじめ学校側で登録する予定です。)

３．履修登録受付

１）申請方法：ポータルサイトを使用します。それぞれのパソコン等からアクセスしてください。

申請期間：オリエンテーションスケジュール等で案内します。

２）履修登録についての教務課相談時間

各学年、学科毎に教務課での相談時間を設けます。オリエンテーションスケジュールでご確認ください。

３）他学年、他学科科目の履修登録

システム上に科目が見つからない、登録できない等があった場合は教務課にご相談ください。

４．労作教育オリエンテーション及び労作登録

１）場所及び時間

入学後に労作教育オリエンテーションを行います。学生は全員出席してください。スケジュールは追って連絡します。

２）１年生の労作教育場所は指定されます。詳細は、労作教育オリエンテーションで発表します。

５．履修登録確認及び履修登録変更

１）履修登録を行った後は、教務課から提供される履修一覧表の用紙 及び ポータルサイトからご自分の履修科目を確認してください。この確認を怠ったため、後に不利益が発生した場合は、全て本人の責任となりますので注意してください。

２）履修登録後、履修追加、履修取消の希望がある場合は、指定された「履修登録変更日」にポータルサイトにて変更手続きを行ってください。

３）登録追加予定の科目は追加手続きを行う前でも授業に出席して下さい。この期間の授業の出欠席も回数に数えられますので、名前が呼ばれない場合は、必ず担当教員に申し出て出席を記録してもらってください。

４）履修登録変更を行った際は、ポータルサイトからご自分の履修科目を確認し、

内容に誤りがないか確認してください。

Ｅ．音楽、英会話及び茶道レッスンについて

上記各レッスン希望者は「学生ハンドブック」の案内をよく読んで、所定の用紙により教務課に申し込んでください。

○レッスン時間やレッスン料についての説明、レッスン申込書の配布等がありますので、指定された日時に、グレンジャー講堂に集合してください。
後日教務課に申込書を提出して頂きます。

○音楽、英会話レッスンは、申込書提出後、レッスン時間を決定します。

Ｆ．こんな時は教務課へ

次のような時には、遠慮なく教務課においでください。

１．履修科目、単位、成績、卒業等についての質問がある時
２．他大学等で取得した単位の認定をしてもらいたい時［単位取得証明書、認定希望科目の授業内容（シラバス）が必要です。］
３．休学、退学をしたい時
４．学生証を紛失した時
５．追試験、再試験を受ける時
６．次のような証明書を発行してもらいたい時
　○在学証明書　　○学生運賃割引証（学割）
　○在学居住証明書（寮生のみ）○通学証明書（通学定期券購入のため）
　○卒業見込証明書　　○成績証明書
７．住所変更その他、自分や家族に一身上の変更があった時
８．忌引、公欠等の届出が必要になった時
９．グループ活動等で教室を使用したい時
10．各種レッスンの申込みまたは取消しをしたい時

１０　授業について

１．　履修期間

本学では、２つの履修期間（前期・後期）に分けて、授業と試験を行い、成績評価と単位認定を行います。各科目は履修期間によって次のいずれかに該当します。

【前期の科目】前期（４月～９月）１５週にわたり履修する科目

【後期の科目】後期（１０月～３月）１５週にわたり履修する科目

※定期試験は履修期間に含まれません。(通常、１６週目に行います。)

２．　授業時間

１講義は９０分です。但し、バイブルウィーク中の１時限・２時限は４５分となります。

各時限の授業時間は下記の通りです。実習の場合には、実習時間が別に定められます。

授業時間

時　限	時　　間
１時限	８：５０～１０：２０
２時限	１０：３０～１２：００
３時限	１２：５０～１４：２０
４時限	１４：３０～１６：００
５時限	１６：１０～１７：４０

３．　休講

担当の教員がやむを得ない理由で授業を休講することがあります。連絡が入り次第、掲示板などでお知らせします。

また、休講の連絡がなく、授業開始から２０分経過しても開講されない場合は、教務課に連絡して指示をもらってください。

１１　試験・成績について

履修した科目の単位認定は、試験の結果、その科目が合格と認定された場合に所定の単位が与えられます。

１．　試験の種類

１）定期試験　前期・後期の各学期末に期日を決めて行う試験。

２）追試験　病気その他やむを得ない理由で試験に欠席した者に対して行う試験。

３）再試験　定期試験等で保留となった場合に行う試験。

２．　受験資格

受験資格は次の通りです。受験資格のない者が試験を受けても無効となり、単位が与えられません。

１）　履修登録をしていること。

２）　欠席時間が所定の授業時間数の４分の１未満であること。欠席時間が４分の１を超えた場合、単位取得資格を失う。

３）　当該学期の授業料を納入していること。

４）　試験方法がレポートの場合は、指定されたレポート用紙に書いて、定められた日時、指定された方法で提出しなければ受理されない。

３．　成績の評価

教養教育科目、専門基礎教育科目および専門教育科目にかかわる試験等の評価は下記の通りです。

評　　価		単位認定
１００～９０点	S	合　格
８９～８０	A	
７９～７０	B	
６９～６０	C	
５９以下	D	不　合　格

定期試験要項

１）遅刻した場合、試験開始後２０分までは入室・受験できる。試験開始後３０分までは退室できない。ただし、監督者が別に指示した場合はそれに従う。

２）教室では監督者の指示通りに着席する。

３）試験中机上には筆記用具および持込みを許可されたもの以外は置かない。筆箱・下敷を含むその他の携帯品は指定された場所に置く。

４）試験中用事があるときは、挙手をしてその意を監督者に伝えその指示に従う。

５）試験終了者は、机上に答案用紙を裏返して残し、直ちに退室する。

６）以下の行為を不正行為とみなし、それを行った場合、当該学期の全科目に不可の評点を与え、２週間以上の停学に付する。

ⅰ　机、掌、着衣等に書込みをすること。
ⅱ　試験中、持込みを許可されていないメモ、ノート、教科書、参考書等を参照すること。
ⅲ　試験中、他人の答案をのぞき見て写したり、写させたりすること。
ⅳ　試験中、私語をすること。
ⅴ　試験中、物品の貸借をすること。
ⅵ　試験中、みだりに座席を離れること。
ⅶ　その他上記に類する行為をすること。

７）その他試験中はすべて監督者の指示に従う。従わない場合、監督者は退場を命ずることができる。

８）上記規定は平常の試験にも準用する。

ＧＰＡ（Grade　Point　Average）

在学中の成績を積算し、総点を総単位で除した平均値を GPA といいます。在学中の全ての成績から算出した GPA を総合 GPA、単年度の成績から算出した GPA を学年 GPA と区別することもあります。区別されないで GPA と表記された場合は総合 GPA を指します。

GPA=総点÷総単位

総点＝（科目ポイント×科目単位）を積算したもの

※科目ポイントは、S(100～90 点）の成績を 4 ポイント、A(89～80 点）の成績を 3 ポイント、B(79～70 点）の成績を 2 ポイント、C(69～60 点）の成績を 1 ポイント、D(60 点未満）の成績を 0 ポイントとします。

総単位＝履修科目の単位数合計

〈GPA の活用〉

アドベンチスト協議会病院奨学金審査、学修指導、保健師課程選考基準等に活用されます。また、成績証明書に記載されます。

〈履修の取り下げ〉

GPA 維持のために科目履修を取り消したい場合は、その科目の授業回数 1/2 を過ぎる前に履修取消願を教務課に提出しなければなりません。但し、実習には適応されません。

１２．１年次開講科目及びシラバス

開講科目一覧

表4　　1年次

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目 単位数 前期	本年度開講科目 単位数 後期	教員名	備考
教養教育科目	アドベンチストの信仰と生活	キリスト教概論A	2	必	2		長谷川　徹	
		キリスト教概論B	2	必			山地　悟	
		聖書Ⅰ	1	必		1	小林　勝	
		キリストの生涯	2	選		2	近藤光顕	
		キリスト教音楽Ⅰ	1	選	1		譜久島　肇	
		キリスト教音楽Ⅱ	1	選		1	譜久島　肇	
	人間の理解	発達心理学	1	必		1	松﨑　敦子	
		人間関係論	1	必		1	高井良しずか	
		哲学	2	選	2		梅田　與四男	
		心理学	2	選	2		森山　哲美	
		スポーツ科学Ⅰ	1	選	1		玉那覇　直大	
		スポーツ科学Ⅱ	1	選		1	森　実由樹	
	文化・社会の理解	社会学	2	選	2		篠原　清夫	
		歴史	2	選		2	村上　良夫	
		美学	1	選		1	中島　健三	
		ボランティア活動論	1	選	1		橋本　笙子	
	情報科学	基礎学習セミナー	1	必	1		新妻規恵 他8名	
		論理的思考	1	必		1	津川さやか	
		情報科学	1	必	1		篠原　清夫	
		統計学	1	必		1	篠原　清夫	
	基礎科学	物理学	1	選	1		尾上　富佐子	
		生物学	1	選	1		山本　理	
		化学	1	選		1	尾上　富佐子	
	語学の修得	英会話Ⅰ（日常英会話）	1	必	1		サムエル コランテン	
		英会話Ⅱ（看護英会話）	1	必		1	サムエル コランテン	
		英語Ⅰ（読む）	1	必		1	新妻　規恵	

	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目 単位数 前期	後期	教員名	備考
専門基礎教育科目	人間と健康	人体の形態と機能Ⅰ	2	必	2		山本理	
		人体の形態と機能Ⅱ	2	必		2	山本理	
		生化学	1	必	1		山本理	
		微生物学	2	必		2	山本理	
		栄養学	1	必		1	仲本桂子	
		疾病・治療学Ⅰ	1	必		1	塚本利朗	
	環境と健康	公衆衛生学	1	必		1	渡邊いよ子	
		健康教育論Ⅰ（理論）	1	必		1	浦橋久美子 佐藤壽子	
		ファシリテーション	1	選	1		田渕裕 田渕蕗	
専門教育科目	基礎看護学	看護学概論	2	必	2		後藤佳子	
		三育の全人的看護と伝統	1	必		1	後藤佳子	
		看護技術の基礎	1	必	1		後藤佳子	
		生活行動援助論Ⅰ	1	必	1		遠田きよみ	
		生活行動援助論Ⅱ	1	必		1	遠田きよみ	
		看護過程の基礎	1	必		1	遠田きよみ	
		基礎看護学実習Ⅰ	1	必	1		後藤佳子	
	地域看護学	地域看護学概論	2	必	2		浦橋久美子	
		地域看護学実習	1	必	1		浦橋久美子 佐藤壽子	
		地域交流実習	1	選		1	浦橋久美子	
	成人・老年看護学	成人の特徴と生活と健康	1	必		1	今野玲子 近藤かおり	
		高齢者の特徴と生活と健康	1	必		1	市川光代	

１３．２年次開講科目及びシラバス

開講科目一覧

表4

２年次

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目 単位数 前期	後期	通年	教員名	備考
教養教育科目	アドベンチストの信仰と生活	聖書Ⅱ	1	必	1			杉正純	
		パーソナルミニストリー	1	選		1		杉正純	【後期】東京
		ミニストリーオブヒーリング	2	選		2		宮﨑恭一	
	人間の理解	教育学	2	選	2			森祐二	
	文化・社会の理解	日本国憲法	2	選		2		山本和弘	東京
		日本文化演習（茶道）	1	選	1			竹上三恵	
	基礎科学	生活環境論	1	選	1			竹上嘉征	
	語学の修得	英語Ⅱ（書く）	1	必	1			新妻規恵	
		韓国語	1	選	1			長谷川うね	
門基礎教育科	人間と健康	疾病・治療学Ⅱ	2	必	2			塚本利朗	
		疾病・治療学Ⅲ	2	必		2		東京衛生アドベンチスト病院医師 15名	東京
		薬理学	2	必	2			佐藤信範	
	環境と健康	健康教育論Ⅱ（演習）	1	必	1			浦橋久美子 佐藤壽子 手塚早苗	
		保健統計演習	1	必	1			篠原清夫	
専門教育学	基礎看護学	ヘルスアセスメント	1	必	1			遠田きよみ 安ケ平伸枝 近藤勇美	
		診療の援助技術論Ⅰ	1	必	1			山口道子 近藤勇美	
		診療の援助技術論Ⅱ	1	必		1		山口道子 近藤勇美 柏木良幸	東京
		基礎看護学実習Ⅱ	2	必		2		後藤佳子 他 8 名	東京
	地域看護学	家族看護学	1	必		1		鈴木美和	東京
		在宅看護論Ⅰ（在宅療養者の生活と支援）	2	必		2		鈴木美和 夏目昌信	東京

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目 単位数 前期	後期	通年	教員名	備考
専門教育学	成人・老年看護学	慢性期看護論	2	必	2			今野 玲子 村上 寛 市川 光代	
		急性期・周手術期看護論	2	必		2		近藤 かおり 今野 玲子	東京
		回復期（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ）看護論	1	必		1		市川 光代	東京
		看護理論	1	選		1		今野 玲子 近藤 かおり	東京
	小児看護学	子どもの特徴と生活と健康	1	必	1			松﨑 敦子	
		子どもの健康と看護	1	必		1		松﨑 敦子 清野 星二	東京
	女性看護学	女性の特徴と生活と健康	1	必	1			今野 和穂	
		リプロダクティブヘルスケアと看護	2	必		2		今野 和穂	東京
	精神看護学	こころと健康	1	必	1			松本 浩幸	
		こころの健康増進と看護	1	必		1		松本 浩幸	東京
	国際看護	国際看護論	1	必	1			土谷 ちひろ	
		国際看護実習Ⅰ	2	選	2			新妻 規恵 近藤 かおり	
	看護の発展科目	医療安全管理学	1	必		1		村上 寛 水溜 和子 佐藤 里砂	東京
		看護倫理	1	必		1		村上 寛 永田 英子	東京
		看護展開演習Ⅰ	1	必		1		今野 玲子 近藤 かおり	東京

１４．３年次開講科目及びシラバス

開講科目一覧

表5　　3年次

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目 単位数 前期	後期	通年	教員名	備考
教養教育科目	アドベンチストの信仰と生活	聖書Ⅲ	1	必	1			東出克己	
専門基礎教育科目	環境と健康	疫学	2	必	2			渡邉いよ子 仲本桂子	
		保健医療福祉行政論	3	必	3			渡邉いよ子	
		保健医療社会学	1	必	1			篠原清夫	
専門教育科目	地域看護学	在宅看護論Ⅱ	1	必	1			鈴木美和	
		産業保健	1	必	1			永島昭司 中野愛子	
		学校保健	1	必	1			坪井美智子	
		在宅看護論実習	2	必		2		鈴木美和	
	人・老年　看護	緩和ケア・終末期看護論	1	必	1			足立光生	
		慢性期看護実習	2	必		2		今野玲子	
		急性期看護実習	2	必		2		近藤かおり	
		回復期看護実習	2	必		2		素村知佳	
		緩和ケア・終末期看護実習	2	必		2		市川光代 白木沙知	
		老人福祉施設実習	1	必		1		市川光代 白木沙知	
	小児看護学	健康問題を持つ子どもと看護	2	必	2			松﨑敦子 清野星二	
		小児看護学実習	2	必		2		廣瀬幸美 松﨑敦子 清野星二	
	女性看護学	女性の健康問題と看護	1	必	1			今野和穂 近藤勇美	
		母性看護学実習	2	必		2		今野和穂 近藤勇美 廣瀬幸美	

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目 単位数 前期	後期	通年	教員名	備考
専門教育科目	精神看護学	こころを病む人と看護	2	必	2			松本浩幸	
		精神看護学実習	2	必		2		松本浩幸 須藤りつ	
	国際看護	国際保健医療問題	1	選	1			土谷ちひろ	
	看護の発展科目	国際看護実習Ⅱ	2	選	2			橋本笙子	
		看護展開演習Ⅱ	2	必	2			今野玲子 近藤かおり 市川光代 白木沙知	
		スピリチュアルケア	2	必	2			山口道子 永田英子	
		スピリチュアルケア実習	1	必		2		山口道子	
		看護研究の基礎	2	必	2			廣瀬幸美 今野和穂	
		看護診断論	1	選	1				2022年度開講せず

≪保健師課程カリキュラム選択者≫

分野	区分	科目名	規定単位	必修・選択	本年度開講科目 単位数 前期	後期	通年	教員名	備考
専門教育科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学原論	2	必	2			浦橋久美子	
		対象別支援技術論	2	必	2			鈴木美和 松本浩幸	
		公衆衛生看護活動展開論	1	必	1			佐藤壽子	